



公益財団法人 日本ハンドボール協会 編
令和2年3月1日発行(毎月1回1日発行) 通巻600号

ハンドボール

3

MAR.2020
No.600



- 機関誌「ハンドボール」600号発行に寄せて
- 第19回男子アジア選手権
- 全日本社会人ハンドボールチャレンジ2020大会



挑戦を続けた日々が、大舞台へと届くように。
諦めない気持ちと、熱い感動を、世界中へ届けるために。

ヤマト運輸はジャパンハンドボールオフィシャルパートナーです。



ヤマトホールディングスは、
東京2020オフィシャル荷物輸送サービスパートナーとして、
東京2020オリンピック競技大会を応援しています。

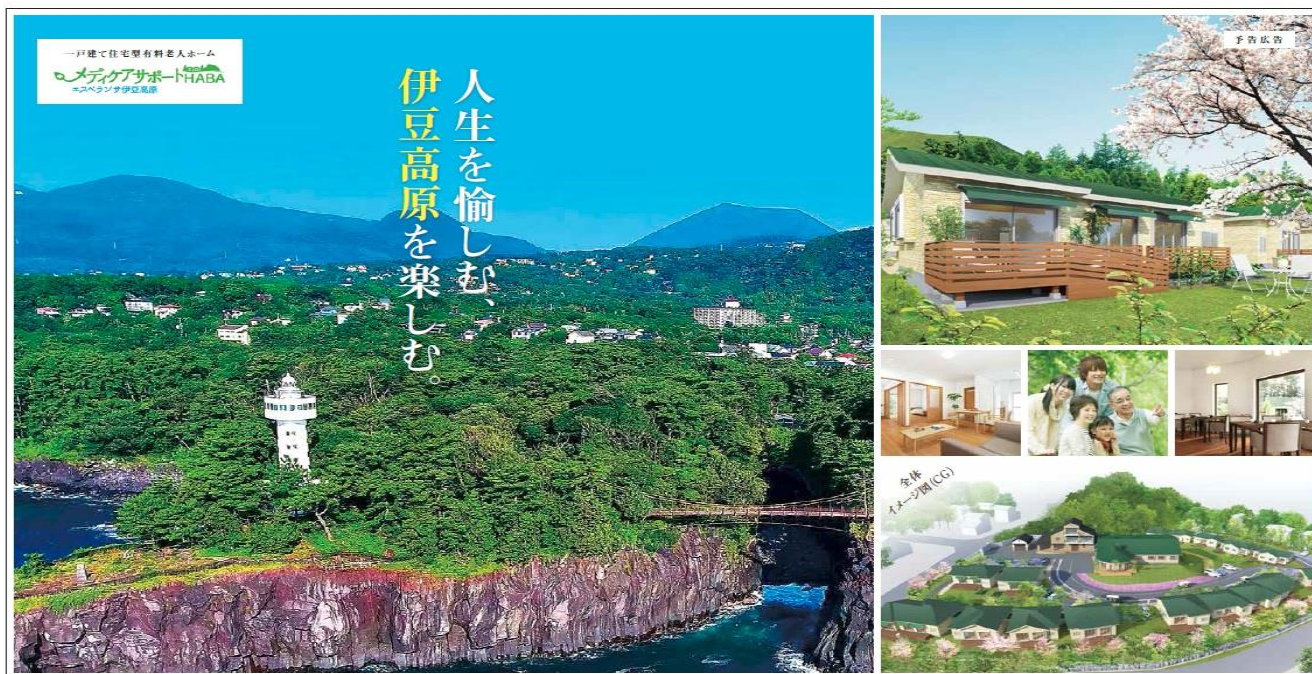


東京2020オフィシャル荷物輸送サービスパートナー
ヤマト運輸はヤマトホールディングスのグループ会社です



プレミアム・リゾートという選択

一戸建て住宅型有料老人ホーム



メディケアサポートHABA

2017年12月伊豆高原にオープン

12/1(金)より予約申し込み開始!

☎ 0557-51-7887 (担当 土屋・はば)

私たち株式会社ユリカコーポレーションは、お客様方へ不動産を用いたライフプランをご提案しております。自社ブランドである『YURIKA ROSE』(ユリカロゼ)シリーズや、社有物件も展開! 待望の2020年『東京オリンピック』まで、いよいよカウントダウンが始まりました。弊社も選手達と共に邁進していきますので、どうぞよろしくお願ひ致します。



私達、株式会社ユリカコーポレーションは女子ハンドボールを応援しています!!

株式会社ユリカコーポレーション

〒101-0041 東京都千代田区神田須田町2-6-2 神田セントラルプラザ1202

TEL : 03-3525-8986 / FAX : 03-5295-8188 <http://yurika-co.jp/>





あたたかい空へ。あたらしい空へ。

ANA Inspiration of JAPAN

A STAR ALLIANCE MEMBER 

Eat Well, Live Well.

Aji
AJINOMOTO.

Behind Your "Best"



車いすバスケットボール
鳥海 連志 選手

バドミントン
松友 美佐紀 選手



競泳
瀬戸 大也 選手

バドミントン
高橋 礼華 選手

ハンドボール
原 希美 選手
ハンドボール
永田 しおり 選手
ハンドボール
横嶋 彩 選手

空手
喜友名 諒 選手



5人制サッカー
加藤 健人 選手
5人制サッカー
黒田 智成 選手

パラ水泳
一ノ瀬 メイ 選手
パラ水泳
木村 敬一 選手
パラ水泳
山田 拓朗 選手

©The Asahi Shimbun via Getty Images
©Atsushi Tomura/Getty Images for Tokyo 2020
©Junya Nishigawa - PARAPHOTO/Getty Images
©Ian MacNicol/Getty Images ©JBFA ©X-1

**味の素(株)は「勝ち飯®」メニューを選手に提供することで、
東京2020オリンピック・パラリンピック日本代表選手団を応援しています。**

＼ がんばる人のチカラになるごはん！

勝ち飯®

オリンピック・パラリンピック日本代表選手団が、世界で勝つために。

味の素(株)は、独自の栄養プログラム「勝ち飯®」メニューで、
彼らのカラダづくりを支えています。



東京2020オフィシャルパートナー
(調味料、乾燥スープ、アミノ酸ベース顆粒、冷凍食品)



【表紙の写真】
第19回男子アジア選手権

CONTENTS

07 機関誌 600 号の節目に際して

——(公財)日本ハンドボール協会常務理事・米原暢男

08 理事就任のご挨拶

——(公財)日本ハンドボール協会理事・松本泰介

機関誌「ハンドボール」600号発行に寄せて

09 協会運営の透明感描く使命——スポーツプロデューサー・杉山 茂

11 ハンドボール界が変わるチャンス——共同通信社運動部・柄谷雅紀

第19回男子アジア選手権

12 最終結果

13 男子日本代表『彗星 JAPAN』メンバー表

14 日本代表チーム報告書——日本代表監督・ダグル シグルドソン

17 日本代表アジア選手権 2020 (クウェート) 報告書・戦評——日本代表コーチ・舍利弗 学

22 PHOTO

全日本社会人ハンドボールチャレンジ2020大会

26 大会を振り返って——鹿児島県協会事務局・海江田貴嗣

27 戦況

28 2019 女子世界選手権大会レポート②——おりひめジャパン情報分析・嘉数陽介

29 銀座泰明小学校でハンドボール教室——(公財)日本ハンドボール協会普及委員長・山本 繁

31 7対6の攻撃 特定の試合状況においてのみ戦術的な選択肢になる

——IHF技術委員会委員長ディートリッヒ シュペーテ

37 編集後記…600号に想う

——機関誌専門委員・近久紀人、村松 誠、菊地知男、川村浩一、小林弘樹、山田盛朗

がんばれハンドボール 20万人会「サポート会員」1月入会・継続会員

【神奈川】山本克己【新潟】遠藤正伸【富山】林 裕子【愛知】大久保栄一、大久保里枝、池宮城正吉

【三重】長谷川幸司、長谷川峰代【京都】廣瀬佳代【大阪】松井真由美、松井敦子、松井彰裕

次号 4月号 (No. 601) は 4月1日発行予定です。

機関誌 600号の節目に際して



公益財団法人 日本ハンドボール協会 常務理事

米原 暢男

このJHA機関誌は、今号で600号となります。単純に月1回の発行としても50年の歴史。この積み重ねを支えてくださったハンドボール・ファンの皆様、諸先輩に改めて、深くお礼を申し上げますと共に、心からの敬意を表します。

改めて申し上げるまでもありませんが、今年は東京2020オリンピック開催の年。ハンドボール日本代表も開催国枠ではありますが、男子代表「彗星 JAPAN」は1988年のソウル大会以来、女子代表「おりひめ JAPAN」は1976年のモントリオール大会以来の出場となります。世界選手権と並ぶ世界最高峰の闘いの舞台上、最高のパフォーマンスを繰り広げるため、選手・スタッフ共に、入念な準備を続けているところです。幸い「おりひめ JAPAN」は昨年末の世界選手権で過去最高となる10位の成績を挙げました。また「彗星 JAPAN」は1月のアジア選手権で銅メダルを獲得。来年1月の世界選手権の出場権を得ています。この余勢をかって、オリンピックでも皆様の期待に添える活躍を見せてくれるものと信じています。

一方、日本リーグでは男子の部に、昨年参入した「ゴールデンウルヴス福岡」に続き、次シーズンからは「東京トライスターズ」が加わります。チャレンジディビジョンでも、虎視眈々と日本リーグ参入を狙うチームの闘いが続いています。また、昨年末の女子日本選手権では、大阪体育大学が決勝戦に進出するなど、ハンドボール界の様々なシーンで実力伯仲、下剋上の様相が進んでいます。

このような活気が、この夏のオリンピックを契機に一層、盛り上がりを見せることを期待しております。そして、その盛り上がりを継続していくことが、我々、日本ハンドボール協会に課せられた使命だと肝に銘じています。

この機関誌の600号という節目に際して、読者の皆様へのお礼を申し上げますと共に、さらなるご支援をお願い申し上げます。

理事就任のご挨拶



公益財団法人 日本ハンドボール協会 理事

松本 泰介

日頃より、日本ハンドボール協会の事業運営にご支援ご協力を賜り、心より御礼申し上げます。昨年、7月より協会の理事に就任いたしました早稲田大学スポーツ科学学術院准教授（博士）、弁護士の松本泰介です。専門は、スポーツ法、スポーツガバナンスという分野で、スポーツ団体のガバナンスやコンプライアンスに関する仕事に数多く携わらせていただいております。

2019年6月10日、スポーツ庁スポーツ審議会は、「スポーツ団体ガバナンスコード〈中央競技団体向け〉について」を取りまとめ、スポーツ庁に答申しました。これまでの経緯を辿れば、2018年に発生した、カヌー、レスリング、アメリカンフットボール、ボクシング、体操、バスケットボールなどでの不祥事から、超党派スポーツ議員連盟が作成した「スポーツ・インテグリティ確保のための提言」を受け、スポーツ庁は、同年12月、「スポーツ・インテグリティの確保に向けたアクションプラン」を発表しました。その上で、スポーツ庁長官が主宰し、日本オリンピック委員会（JOC）など統括団体等の長を構成員とする「スポーツ政策推進に関する円卓会議」を設置し、上記のとおり、「スポーツ団体ガバナンスコード〈中央競技団体向け〉」の策定に至っています。2020年度からは、この「スポーツ団体ガバナンスコード〈中央競技団体向け〉」に基づく適合性審査が行われ、中央競技団体が不適合と判断された場合、国民体育大会実施競技や競技力向上事業の選定に影響する可能性が示唆されています。

中央競技団体のガバナンスは、当該団体が管轄する競技、種目の強化・普及・振興に極めて大きな影響を及ぼします。人材と予算に関して適正な権限と責任が分配され、機能的かつ効率的な団体運営ができる団体は、競技人口の拡大や事業資金の獲得が可能になりますが、そうでない団体は団体運営に困難を極めることとなります。既に日本の中央競技団体においては、ガバナンス強化を全面に打ち出した団体も登場し、ガバナンス強化に関し、二極化の傾向も生まれてきています。ポスト2020年を迎えるにあたり、中央競技団体として意識していく必要があります。

就任間もなく、ハンドボール界のことをまだ十分に把握できておりませんが、今後ともご指導ご教示のほど宜しくお願い申し上げます。

協会運営の透明感描く使命

杉山 茂 スポーツプロデューサー

創刊号（1960年6月）から20年間ほど、ほぼ毎号お手伝いさせてもらった縁で、そのあとも100号ごとの節目に寄稿の依頼を受ける。スポーツ団体はこの種の事業をあまり得手とはしないが、歴代スタッフの努力で「ハンドボール」は見事に継承されている。嬉しいことだ。

創刊のころは、思う存分ハンドボールの原稿を書ける、とメディア（当時はマスコミと呼ばれていたが…）の世界に在籍したOBがこぞって筆をとった。全OBの共通のペンネームとして「駒沢球治郎」なるライターを誕生させたが、出稿に手間どると「今月号の駒沢サンはすでに埋まっています」と言われたものだ。予定では「会報」の名で発行するとされたが、いつの間にか「機関誌」に“定着”した。

機関誌ならば、当ぜん、日本協会の施策の解説や、実情報告が主体となるべきだが協会内に書き手を求めるのは難しかった。

役員であり、レフェリーであり、監督・コーチでありと1人がかけ持ちで協会、大会の運営を支えていた時代だ。諸会議の書記役をつとめる人に執筆を依頼するのは、さらに一役負担をかけることにもなった。

2～3年経って、各会議のメモや委員会報告をもとに編集委員が原稿をおこし、中央—地方間の流れが生まれる効果へつなげた。審判部の全面協力で全国大会の試合後記を特集もできた。一方で、理事や委員は愛好者から質問を受けるようになり、「機関誌があまり先行するのは考えものだ」という声がささやかれはじめる。なんということだ。日本協会の事業や行動を伝えないで、なんで機関誌と呼べるのか。

雑音を振り払い、ひたすら日本協会運営の透明性を磨こうと日本協会情報を最優先したのは、“編集長”藤本強氏（東大OB）の情熱によるものだ。彼の強い姿勢がなければ、機関誌は今日を迎えられなかった。自身も秀でた語学力を駆使してヨーロッパのニュースはもちろん、技術リポート、ハンドボール史などを精力的に書きつづけた。機関誌の厚みはいちだんとふくらみ冴えた。後年、日本を代表する考古学者となり、世界の文化遺産をめぐる国際的な論客となる彼がハンドボール競技者であり、ハンドボール編集者であったことは誇らしい。ある頃から毎月1回、印刷所の校正室で、2人で次号の打ち合わせを兼ねて夕刻から深夜まで意見を交えるのが定例となった。忘れ得ぬ思い出だ。藤本氏は2010年、ドイツでの研究旅行中、74歳の若さで他界され、学界あげての惜別の声に包まれた。

学究の深まりで彼の機関誌発行にかけられる時間に制限が生じ、1973年から小生がその役を引き継ぐことになった。アマチュア・スポーツを論じる報道各社の第一線記者に寄稿を願い、ハンドボール界の外からの視線を意識的に強めた。耳の痛い話もある。当ぜん、お気に召さぬ役員の声が耳に入る。

オリンピック競技に定着し、アジアの急激な発展のなかで、旧態のままでは向上できない。それには容赦のない外からの刺激が欠かせなかった。田村正衛会長、荒川清美理事長の理解を得て、安住を許さぬムードづくりに機関誌を役立たせる道をつづけた。

意外な批判が聞こえた。機関誌は内容がマンネリで体制寄りだ、というのだ。体制側に立たぬ機関誌などあるものかと思いながら、1960年まで頻発したハンドボール界内のいくつかの小ぜり合いを思い出した。つまらぬ勢力争い。いままた日本ハンドボール界の舵とりを狙う力が、とりあえず機関誌を切り口に、とするならその場に立ちはだかることもない。藤本氏に電話で相談し、機関誌との関わりは一気に薄いものとなった。

◆日本ハンドボール界の明日を考える切り札に

それから40年近くが経った。休みなく発行がつづけられ600号だ。大変化があった。2017年4月号(第567号)を最後に印刷メディアでの活動を終え、ネット(日本協会ホームページ)での“配信”になり、新たな読者を迎える。機関誌自体の発展というより、時代がそうさせたのだ。1冊々々袋に詰めて郵送し、送る側・受ける側が築いた目に見えぬ熱いつながりは消えたが、おそらくかつてない数の読者が立ち寄り、目を通していただろう。

中学生大会で優勝して並んだはじけるような明るい笑顔は一瞬にして全国に散り、いや、世界のどこかでも拍手で迎えられているかもしれない。それはそれで素晴らしい。

内容には注文がある。ホームページで速報された各種ニュースを掘り下げた記事が乏しい。日本ハンドボール界の“現在地”を知らせようとする記事は、かなり前から少なくなっている。

北村善夫氏という気骨のある編集者がその部分に路線を敷きかけた時代があるが、思うように運ばなかった。執行部が閉鎖的で積極的な協力がなかったと彼自身から聞いた。長く愛情あふれるコラムを書きつづけてくれた元中国新聞(広島)運動部記者、早川文司氏も「語ろうとしない日本協会」に失望することが少なからずあったと言う。両氏とも他界されてしまったが、功労者であった。

現代は何を探っても、すでにいずれかで報じられており、鮮度の高さを保つのは容易ではない。まして月刊、発行の苦労は察して余りあるが機関誌は「日本協会発」という中核の最も身近な“優位”を切り札にできる評議員会、理事会をはじめ各委員会の動向を伝えるのは藤本氏が遺した協会運営の透明性を継ぐものでもあろう。少々のタイミングのずれはかまわない。「東京オリンピック2020」後のスポーツ界、スポーツ組織に課せられる姿勢は「自立」だ。

日本協会の総てに事業感覚が求められ、その成功がなければ、これまで以上に前進のスピードは鈍る。その覚悟のなかで、機関誌はつねに日本のハンドボールの今日と明日を考え続けたい。せっかく電子版にしたのだ。多くの愛好者が次々と寄稿するシステムも可能だろうし、日本ハンドボール界の動向を伝える英文ニュースのページもとうに考えられてよかった企画だ。

あと2年で、日本にハンドボールが伝来して100年になる。

ハンドボールの存在感を内外に示す輪の軸に機関誌はいつもいてほしい。



好評発売中

ハンドボールスキルアップシリーズ 目からウロコの ポジション別上達術

スポーツイベント・ハンドボール編集部 編著
B5判 188ページ 1,800円+税 発行元 グローバル教育出版

バックコート、サイド、ポストの3ポジションについて、それぞれの役割、求められる能力などをわかりやすく解説しているコートプレイヤー必読の一冊です。

既刊



目からウロコのDF戦術
1,800円+税

株式会社スポーツイベント TEL:03-3253-5941 ご注文はオンラインショップから→<http://sportsevent.shop-pro.jp/>

ハンドボール界が変わるチャンス

柄谷 雅紀 共同通信社運動部

第1号の発行からちょうど60年。機関誌600号が2度目の東京五輪、そしてハンドボールが五輪競技として初めて日本で行的る2020年に発行される。この記念すべき年こそが、日本のハンドボール界にとって分水嶺になるのではないだろうか。



日常生活においてスポーツは、それなしでは生きていけない必要不可欠なものではない。しかし、スポーツは生活を豊かにする。つまり、娯楽、余暇の一種なのだ。いま、日本には娯楽があふれている。その中でスポーツがこれからも娯楽の選択肢であり続けるためには、多くの中から選ばれる存在にならねばならない。

スポーツにも多くの競技がある。日本では野球、サッカーに続いてバスケットボールもプロ化され、興行として成立するようになった。ラグビーも2019年のワールドカップの勢いを生かして観客数を伸ばしているし、プロ化に向けて動いている。ハンドボールはそれらの中から選ばれなければ、先細りになるのは必定だ。

露出が減れば、人目に触れる機会が少なくなり、競技人口が減って、競技力が低下する。負のスパイラルに陥る前に手を打たねばならない。東京五輪に向けてあらゆるスポーツへの注目が高まっている今こそが、絶好のチャンスである。

ハンドボールのコンテンツとしてのポテンシャルは高い。試合はハーフタイムを入れて1時間30分ほど。展開はスピーディーで、得点は何度も入る。ルールも難解ではない。激しい身体接触もあり、観客が楽しめる要素は揃っている。ひとたび目にすれば、きっと「また見たい」と思う人は多くいるはずだ。

たくさんの人に見てもらうための、最も効果的で簡単な方法は代表チームの活躍だ。今年の東京五輪で準々決勝まで勝ち上がれば、否応なく注目される。メダルマッチまで進めばなおのことだ。東京五輪まで残された日数はわずかだが、ハンドボール界は総力を挙げて取り組む必要がある。

しかし、普及と発展の重荷を全て代表に背負わせるのはナンセンスだし、リスクもある。代表の成績に左右されずにハンドボールを盛り上げていくためには、各地にある日本リーグのチームが地域に根ざし、地元のファンを獲得していくことが肝要だ。全国的には取り上げられなくても、地域で浸透し、地元紙や地元テレビ局に取り上げられ、地元の人に愛される。そして常に2000人以上を集客できるようになれば、興行としての道が見えてくる。

日本リーグは全国各地で行われている。バレーボールもそうだし、かつてのバスケットボールもそうだった。理由の一つは、トップレベルのプレーを多くの場所で見せることで普及につなげるというものだ。しかし、インターネット配信であらゆるスポーツがいつでもどこでも観戦できるようになった今、見直すときが来ているのではないか。興行として成立している前述の3競技は全てホームアンドアウェイ方式で興行権は各チームが保有している。そうしてこそ地域に根ざすし、地元の人たちが応援に来るようになり、利益を得られる。

スポーツは、人に見てもらってこそ価値がある。そのことを今一度、肝に銘じなければならない。スポーツへの注目がこれまでにないほど高まっている今こそ、ハンドボール界が変わるチャンスである。

開催期間：2020年1月16日～1月27日

開催地：クウェート

第19回 男子 アジア 選手権

19th Asian Men's Championship

最終順位

優勝：カタール

2位：韓国

3位：日本

4位：バーレーン

5位：UAE

6位：イラン

7位：サウジアラビア

8位：クウェート

9位：イラク

10位：香港

11位：中国

12位：オーストラリア

13位：ニュージーランド

オールスターズセブン：土井レミイ杏利、
大会ベストプレイヤー：東江雄斗が選出

男子日本代表 『彗星 JAPAN』

役職	氏名	所属
団長	田口 隆	(公財) 日本ハンドボール協会
ヘッドコーチ	Dagur Sigurdsson	(公財) 日本ハンドボール協会
アシスタントコーチ	舍利弗 学	(公財) 日本ハンドボール協会
GK コーチ	Antoni Parecki	(公財) 日本ハンドボール協会
GK コーチ	北林 健治	(公財) 日本ハンドボール協会・都城工業高等学校
ドクター	有田 忍	(公財) 日本ハンドボール協会・小波瀬病院
トレーナー	飯田 純一郎	(公財) 日本ハンドボール協会・J・フロントライン
トレーナー	島 俊也	(公財) 日本ハンドボール協会・にいたにクリニック
アナリスト	吉村 晃	(公財) 日本ハンドボール協会・豊田合成

背番号	位置	氏名	所属	生年月日	身長 (cm)	出身校	国際試合 出場数	国際試合 得点
3	RW	柴山 裕貴博	大崎電気	1992.05.21	177	大阪体育大学	7	6
10	LW	杉岡 尚樹	トヨタ車体	1994.04.18	177	中央大学	23	22
12	GK	岩下 祐太	トヨタ紡織九州	1991.06.21	183	早稲田大学	6	0
13	PV	笠原 謙哉	トヨタ車体	1988.05.15	197	東海大学	60	32
14	CB	北詰 明未	トヨタ車体	1996.10.22	186	中央大学	6	10
15	LB	部井久 アダム 勇樹	SARAN(FRA)	1999.04.21	194	博多高等学校	34	57
16	GK	甲斐 昭人	トヨタ車体	1987.04.29	184	日本体育大学	91	2
18	LB	成田 幸平	湧永製薬	1989.06.15	191	大阪体育大学	75	113
19	RB	徳田 新之介	豊田合成	1995.12.06	178	筑波大学	49	192
20	RB	渡部 仁	トヨタ車体	1990.01.17	183	日本大学	78	256
21	LW	土井 レミイ 杏利	大崎電気	1989.09.28	181	日本体育大学	46	104
25	RW	元木 博紀	大崎電気	1992.02.14	182	日本体育大学	73	193
26	GK	久保 侑生	大同特殊鋼	1988.05.24	186	筑波大学	47	1
27	PV	玉川 裕康	大崎電気	1995.04.27	197	国士舘大学	43	32
29	PV	岡元 竜生	トヨタ車体	1993.11.01	192	中部大学	17	8
31	LB	吉野 樹	トヨタ車体	1994.07.13	182	明治大学	31	99
33	CB	東江 雄斗	大同特殊鋼	1993.07.06	183	早稲田大学	55	185
41	RB	徳田 廉之介	Tarnów(POL)	1998.05.15	180	岩国工業高等学校	2	2
42	LB	小澤 基	大同特殊鋼	1996.08.01	187	日本大学	0	0
43	PV	吉田 守一	筑波大学	2001.03.26	190	那賀高等学校	0	0

あなたの元気を未来につなぐ
Wakunaga

**元気、やる気、
笑顔、湧く。**



キョーレオピン
KYOLEOPIN
LIQUID

《販売名》
キョーレオピンw

**滋養強壯
虚弱体質**

第3類医薬品



レオピン
ファイブ

《販売名》
レオピンファイブw





湧永製薬株式会社
http://www.wakunaga.co.jp/

お取扱店のお問い合わせ **0120-39-0971**
(通話料無料) 受付時間 9:00~12:00・13:00~17:00 (土日祝日を除く)

The Analysis report of the Men's National team

(Training camp in Japan and Asian Championship in Kuwait / December 2019 -January 2020)

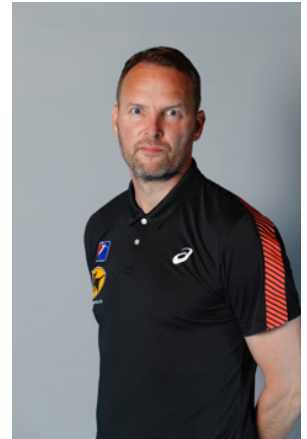
Introduction (Training camp in Japan)

It was a pleasure for me to go and watch the final of the woman world championship in Kumamoto. Directly after that on 16th of December I met my team in Hakodate, HOKKAIDO where we started our training camp. We got a fantastic hospitality and great facilities to train and relax in their famous ONSEN. Great for the team to have a new experience and new location to break up our routine. Unfortunately out GK Sakai and Shida were injured and could not take further part in our preparation. We worked on physics and tactics and we had Mr. Aikawa strength coach with us the whole time in Hakodate. Mr. Katsura performance coach joined us then in ANTC from 20th of December for plyometric and speed training as well as Mr. Tachiya mental coach who continued with the mental training. Handball and individual training, Interval, Power, Nutrition seminars from Ms. Kurosawa, SAKURA nutritionist, Anti doping seminar by the team doctor, Mr. Okimoto as well as lecture about integrity (Risk management, Self management) from JOC. We had a good meeting with all the JHL coaches, where we could talk about the build up to the Olympics. We had an Olympic check up and fitting from JOC. We had already made plans for test games in Bahrain, but we decided to cancel them because after the draw we could see that it was very likely that we would play a key match against them in the main round. Instead we decided to invite Valur, a club team from Reykjavik who has helped us in the last couple of years with guest players, coaches and facilities for training. It was a very successful period to train together and play against them. After they left Japan for Iceland back, we were ready and used the last training session for detail tactical and individual shoot training. Our goal for the Asian Championship was to get into the top4 that would give us a place at the World Championship 2021 in Egypt.

日本代表チーム 報告書 (国内強化合宿・アジア選手権 2020)

はじめに (国内強化合宿)

熊本で行われた女子世界選手権決勝戦を観戦しました。それはとても素晴らしい体験となりました。そして、直後の12月16日から北海道・函館にて強化合宿をスタートさせました。地元函館の皆様から手厚い歓迎を受け、また、トレーニング施設やリラックスするための温泉施設も非常に素晴らしいものでした。普段とは違う環境の中で新たな経験ができた事はチームにとって素晴らしい事でした(普段は味の素ナショナルトレーニングセンターが強化拠点)。残念ながら GK の坂井選手が負傷の為、また、信太選手も合宿中の負傷の為強化合宿に参加することが叶いませんでした。函館では戦術練習とフィジカルトレーニングに時間を割きました。また、相川ストレングスコーチは函館合宿にフル帯同してくれました。その後、12月20日からは ANTC (味の素ナショナルトレーニングセンター)にて強化合宿を継続し、桂パフォーマンスコーチによるプライオメトリクストレーニングやスピードトレーニング、また、立谷メンタルコーチによるメンタルトレーニングを実施しました。ハンドボールトレーニングのみならず、個人トレーニング、インターバルトレーニング、パワー系トレーニング、黒澤管理栄養士(味の素ナショナルトレーニングセンター・サクラダイニング)による栄養学セミナー、沖本ドクターによるアンチドーピングセミナー、JOC(日本オリンピック委員会)によるインテグリティセミナー(リスクマネジメント研修・セルフマネジメント研修)なども合わせて実施しました。また、日本リーグ所属チームの監督・スタッフの皆様と、オリンピックに向けて大変良いミーティングが出来ました。JOC主催のオリンピック派遣前手続き(メディカルチェック・採寸等)にも参加しました。バーレーン代表とは(アジア選手権前に)テストゲームをする予定でしたが、キャンセルしました。何故ならば、アジア選手権の組み合わせ抽選の結果、メインラウンドの大切な試合で彼らと対戦する可能性が高まった事が理由でした。その代わりに、アイスランドから「VALUR」(アイスランドトップリーグ所属)を招聘することにしました。彼らはここ数年、度々ゲストプレーヤーとして来日して我々のトレーニングの手助けをしてくれています。また、我々がアイスランド国内で合宿する際にトレーニング施設を提供してくれるなど友好的な関係を構築しています。彼らと共にトレーニングやゲームをする時間を持てた事はとても有意義でした。そして、彼らが離日した後に、我々は最終調整として細かな戦術の調整やシュートトレーニングに時間を割きました。アジア選手権に向けての我々のゴールはベスト4に入り、エジプトで開催される世界選手権2021の出場権を獲得する事でした。



Asian Championship:

【Game No.1, January,17】

China: JPN39 (17 -9, 22 -7) 16 CHN

Our first game in our group was against China. They had a lot of new members and it took us a little time to find our rhythm. We could use all of our 16 players so it was good to get us started. We were much stronger and won easily.

【Game No.2, January,18】

Qatar: JPN28 (17 -16 , 11 -20)36 QAT

After a disappointing Olympic qualification Qatar came back with full squad and full strength. We played very good in the first half and went up by one point at half time. Unfortunately we came back to soft and lost the believe too early. We came from behind defeat.

【Game No.3, January,20】

Saudi Arabia: JPN30 (16 -10 , 14 -12)22 KSA

We could prepare very well for the Saudi Arabia game. Had a good game plan and could dominate the game. Very focused and good concentration.

【Game No.4, January,21】

Bahrain: JPN25 (10 -11, 15 -12)23 BRN

As we thought before the tournament this was a key game to qualify for the World Championship 2021. It was a 50%/50% game from the start. It is clear that Bahrain has a problem with our 5-1 DF. We showed a great mental strength to finish with a win. In our mind we were now safe for World Championship. But because of UAE win against Saudi it was a possibility that we would lose our place if we lost next game with 7 goals.

【Game No.5, January,23】

UAE: JPN31 (18 -13, 13 -6) 19 UAE

With a big pressure and "all to lose" we went into the game a little bit nervous but that was only the first 5 minutes, after that we took control and won very easily and now we were safe for World Championship and won our group in the main round. That meant we would play against Korea in semi final.

【Game No.6 Semi final, January,25】

Korea: JPN32 (19-16, 10-13, 2-2, 1-3)34 KOR

In my opinion we were the much better team, but we invited Korea back into the game and because it was a semi final, anything can happen. We lost in an over-time. We will learn a lot from this loss, because it was

アジア選手権

【第1戦 予選ラウンド 1月17日】

日本代表 39 (17 - 9, 22 - 7) 16 中国代表

予選ラウンド初戦の相手は中国代表でした。中国代表は新メンバーが多数在籍しており、その為、我々も自分達のリズムを掴むまで多少時間が掛かりました。我々はベンチ入りメンバー 16名全員をコートに送り出すことが出来、大会初戦、完勝し良いスタートを切ることが出来ました。

【第2戦 予選ラウンド 1月18日】

日本代表 28 (17 - 16, 11 - 20) 36 カタール代表

オリンピックアジア予選で敗退したカタール代表は、フルメンバーのチーム構成で、且つ、調子を上げてアジア選手権に臨んできました。我々、日本代表は前半戦とても良い試合をし、1点差リードをしてハーフタイムに突入しました。残念ながら後半戦に入ると後手に回り、早い段階で連続失点を喫して逆転負けをしました。

【第3戦 メインラウンド 1月20日】

日本代表 30 (16 - 10, 14 - 12) 22 サウジアラビア代表

サウジアラビア戦に向けてはとても良い準備をしました。ゲームプランも良く、試合を優位に進めることが出来ました。全員が高い集中力を保ってゲームに臨みました。

【第4戦 メインラウンド 1月21日】

日本代表 25 (10 - 11, 15 - 12) 23 バーレーン代表

大会前に我々が考えていたように、世界選手権 2021 出場権獲得に向けて、重要な試合となりました。試合序盤は互角の展開でした。バーレーン代表は我々の 5 - 1DF に対して問題を抱えていました。我々は強い精神力を発揮して、試合を勝利で飾りました。この勝利によって、我々は世界選手権の出場権を得た（ベスト4進出）と思いましたが、我々の試合の後、UAE 代表がサウジアラビア代表に勝利した為、次の対 UAE 戦の結果次第（7点差での敗退）では、準決勝進出が出来ない可能性が出てきました。

【第5戦 メインラウンド 1月23日】

日本代表 31 (18 - 13, 13 - 6) 19 UAE 代表

大きなプレッシャーのかかった試合でした。緊迫した状態で試合に臨みましたが、試合開始5分過ぎから我々は試合を優位に運び、大勝する事が出来ました。そして、メインラウンド1位が確定し、世界選手権の出場権も獲得しました。準決勝では韓国代表と対戦する事が決まりました。

【第6戦 準決勝 1月25日】

日本代表 32(19-16, 10-13・延長2-2, 1-3)34 韓国代表

私の個人的な意見としては、我々は韓国代表より強いチームであったと思います。しかし、韓国代表に逆転を許しました。準決勝は難しい試合となりました。我々は延長戦の末に敗退しました。この敗

unnecessary. This meant that we would play for the bronze medal against Bahrain (again).

【Game No.7 Bronze medal match, January,27】

Bahrain: JPN27 (14 -15, 13-11)26 BRN

Could we do it again? We decided to use all the energy that was left in our squad. Everybody took responsibility and helped team to a great victory. Definitely time to feel proud of our team. They got this award after hard work and lot of disappointments. We took the next step. We overcame lot of boundaries and I'm happy for them.

Of course Handball is a team sport but It was nice to see Agarie as MVP and Doi in the best 7 of the tournament, congratulations!

Conclusion

Even so we lost with Bahrain, many times before. But in the Asian championship we beat with Bahrain, 2 times in a row. We have been playing good in my opinion for more than a year now, but we have not got the right result. Step by step we are playing better under high pressure at the end of the game. Not always but more often. More mental strength and confidence in our ability is starting to pay off. Also it was disappointed that we lost against South Korea by a little difference. Unfortunately we did not manage to finish the game off against Korea, we always learn from each defeat and are willing to fight back. In addition, recently our players' pool has been growing and more players are now ready to take more responsibility. The last match against Bahrain, We put players who did not have a lot time to play in the tournament. And we won by those young players. That means I realize that most players are developing and we could get big player's pool. In every training camp we try to develop our game. Try new tactics and way. Developing both individual and team performance. I can't wait to be back and see the finals of JHL, after that we will continue with a training camp and play games against Olympic and World Champions Denmark in April.

Let's do our best!

**Head coach of the Men's national team,
Dagur Sigurdsson**

北は不必要でしたが、我々はこの敗北から沢山の事を学ぶでしょう。この結果、3位決定戦で再びバーレーン代表を対戦することになりました。

【第7戦 3位決定戦 1月27日】

日本代表 27 (14 - 15, 13 - 11) 26 バーレーン代表

もう一度勝利を掴み取れるか？我々は今持っている全てのエネルギーをこの一戦で使い果たす事を決めました。全選手が責任を果たし、チームに貢献した結果、素晴らしい勝利を掴み取りました。チームを誇りに思う瞬間でした。選手は懸命に努力し続け、同時に沢山の悔しい思いも重ねてきた結果、この瞬間を迎えました。我々は多くの困難を克服して、更なる高みへステップしました。大変嬉しく思います。

もちろん、ハンドボール競技はチームスポーツですが、土井選手が今大会の「ベスト7」に、また、東江選手が大会「MVP」に選ばれた事はとても嬉しい事でした。おめでとうございます。

結び

これまで我々はバーレーン代表に対して多くの敗北を経験してきました。しかし、このアジア選手権では2連勝する事が出来ました。近年は、数多くの良いプレーが見受けられるようになってきました。しかし、結果が中々伴わない時期もありました。現在、徐々にではありますが、ゲーム終盤の高いプレッシャーの中でも良いパフォーマンスが発揮できるようになってきています。まだまだ充分ではありませんが徐々に成長しています。強い精神力と自信を発揮できるようになってきています。また、僅差ではありましたが、韓国代表に負けた事は残念でした。韓国代表との試合ではゲームの終わらせ方が上手いきませんでした。我々は常に敗北から学びます。そして、強くなって再び戻ってくる事を望んでいます。

最近選手層も厚くなってきたと感じています。特にバーレーン代表との3位決定戦では、それまで出場機会の少なかった若手選手にもチャンスを与え、勝利を収めました。選手の成長と選手層の厚みを実感した瞬間でもありました。

我々は全ての強化合宿で成長を目指します。我々が持つ可能性を最大限発揮する方法を見つけ、新たな戦術にもトライします。これらを我々は継続します。個人とチーム、両方の成長を目指します。

今、私は、JHL（日本リーグ）のプレーオフを大変楽しみにしています。そして、プレーオフの後には強化合宿をスタートさせます。4月には現オリンピックチャンピオンでもあり世界選手権チャンピオンでもあるデンマーク代表との試合を予定しています。

(訳：舎利弗学)

Let's do our best!

**日本代表 監督
ダグル・シグルドソン**

日本代表アジア選手権 2020 (クウェート) 報告書・戦評

日本代表コーチ 舍利弗 学

日本代表（彗星ジャパン）は、1月16日から27日の日程でクウェートにて開催された「第19回アジア選手権」に出場しました。まず、チームは12月16日に北海道・函館市に集合。地元函館の皆様の温かい「おもてなし」の中、強化合宿をスタートさせました。その後、20日からは味の素ナショナルトレーニングセンターに移動して合宿を継続。合宿中はハンドボールトレーニングと並行して、相川ストレンクスコーチによる「ウェイトトレーニング」や立谷メンタルトレーナー（国立スポーツ科学センター）による「メンタルトレーニング」、桂パフォーマンスコーチの「フィジカルトレーニング」を実施。さらには、「インティグリティ研修」として、沖本ドクターによる「アンチドーピング研修」、「リスクマネジメント研修」（JOC）・「セルフマネジメント研修」（JOC）・「JOC 覚悟プロジェクト～メダリストの闘い～（過去の五輪から学ぶ）」など研修の機会も数多く設け、競技力のみならず人間力の成長も目指しました。また、食事・栄養面では味の素ナショナルトレーニングセンター・サクラダイニングの黒澤管理栄養士のご指導の元、充実した環境において強化合宿が実施出来ました。

1月7日から12日までアイランドリーグ所属のVALUR（シングルソン監督の出身クラブ）をゲストチームとして招聘。国内で海外同様の実践環境を整備して、海外勢の重さと高さになれることに主眼を置いてトレーニングを実施しました。その後、1月13日の夕方便にてアブダビ経由でクウェートに向かいました。

以下、第19回アジア選手権における試合内容（戦評）についてご報告いたします。

【彗星ジャパン アジア選手権 第1戦 予選ラウンド 1月17日】

日本代表 39 (17 - 9, 22 - 7) 16 中国代表

得点者：柴山2点、杉岡9点、岩下1点、部位久3点、徳田（新）6点、渡部3点、土井3点、元木1点、玉川2点、吉野4点、東江1点、小澤1点、吉田3点

アジア選手権初戦の相手は中国代表。チーム構成が頻繁に変わるため事前のスカウティングに苦心する中国代表だが、そのような状況の中でも最善の準備をして臨んだ初戦。日本はGKに岩下。笠原、成田をセンターDF、2枚目DFに渡部と吉野、1枚目DFに元木と土井を配置した「6-0DF」でゲームスタート。

攻撃はプレーメーカーに東江、渡部と吉野がバックコート、元木と土井がサイド、ポストに笠原の布陣となった。

立ち上がり、素早いパスワークから土井のサイドシュートで先制。中国もコンビネーションからディスタンスシュートを狙うも岩下の好セーブが光り得点を奪えない。続けて岩下の好セーブから吉野の速攻で2点目。中国も引き続きコンビネーションからディスタンスシュートを狙うものの、日本のDFとGK岩下の連携が上手く機能して得点を許さない。さらに、日本はセンターDFの機動力を生かして相手シューターにコンタクトに行きたいところだが、逆に反応が遅れて相手選手へコンタクトしたところで「2分間退場」をしてしまい、その後の相手パワープレーの際に失点。だが、日本は一人少ない状況でも慌てずにコンビネーションプレーから渡部がミドルシュートやカットインで得点し、嫌な流れを断ち切ることに成功。以降も岩下の好セーブから吉野のディスタンスシュートや玉川の好ブロックからの土井の速攻などで得点を重ねていく。9対1となったところで中国代表はタイムアウトを請求。タイムアウト明けから、日本はこの日代表デビューとなる小澤を投入。他にも部位久、柴山がコートに入る。中国はDFシステムを「4-2DF」に変更。日本は落ち着いて攻めたいところだが、逆にミスからの速攻で失点を重ねてしまう。しかし、相手の退場を機会に落ち着きを取り戻し、部位久のディスタンスシュートや柴山のサイドシュート、小澤のカットインなどで加点。さらに、相手7MTを岩下が好セーブするなど相手に流れを渡さなかった。前半終了間際にも岩下の好セーブがあり17対9で前半終了。

ハーフタイムでは、主に「4-2DF」に対する攻略法をチーム全体でもう一度再確認して後半に臨む。

日本は後半に入っても攻撃の手を緩めず、後半から出場の杉岡のサイドシュートや速攻などで次々に加点していく。また、後半から出場の久保も好セーブを連発し、この日小澤と並んで代表デビューとなった18歳の吉田も得点を決めて更に点差を広げる。その後も小澤のカットインから得た7MTのチャンスを杉岡（本日9得点）が決めるなど、中国にペースを握らせることなく試合は39対16で終了。岩下と久保の両GKの活躍も目立った試合となった（岩下47%・久保46%）。

この試合の勝利によって日本はメインラウンド進出を決めた。なお、この試合のMOMには奇しくもこの日に誕生日の渡部が選出された。明日はカタール代表との試合。日本代表は連戦となり、カタール代表は中1日で迎える試合となる。次の試合まで残された時間を有効に活用して、最善の準備を実施して更なる飛躍を狙いたい。

【彗星ジャパン アジア選手権 第2戦 予選ラウンド 1月18日】

日本代表 28 (17 - 16, 11 - 20) 36 カタール代表

得点者：杉岡1点、北詰2点、部位久3点、成田4点、徳田（新）5点、渡部2点、土井2点、玉川1点、吉野3点、東江5点

アジア選手権2戦目の相手はカタール代表。多くの帰化選手を揃え、近年のアジアハンドボール界を席巻してきたチーム。

試合前に北詰を新たにメンバー登録。スタートメンバーは昨日の中国戦と同じ布陣で臨む。GKに岩下。笠原、成田をセンター

DF、2枚目DFに渡部と吉野、1枚目DFに元木と土井を配置した「6-ODF」でゲームスタート。

攻撃も昨日と同様にプレーメーカーに東江、渡部と吉野がバックコート、元木と土井がサイド、ポストに笠原の布陣となった。

試合開始、好守から吉野の速攻で先制点。その後カタルの個人技で失点を重ねるが、日本も東江の7MTや渡部のミドルシュート、土井のサイドシュート、岩下の好セーブなどで付いていき、一進一退の攻防が暫く続く。前半14分過ぎに部位久のディスタンスシュート、東江の速攻が連続で決まり、8対8の同点になった場面でカタルはこの日最初のタイムアウトを請求。タイムアウト明け、日本はこの日に新たにメンバー登録された北詰がコートに立つ。前半20分過ぎ、部位久のディスタンスシュートでリードを奪い、その後、徳田のディスタンスシュート、吉野の速攻で2点にリードを広げる。直後に点差を1点に縮められるも、カタルの選手が一人退場している際に徳田のカットインプレーで再び2点差にリードを保つ。相手エースCAPOTEに反撃を許し同点にされるも、後半終了間際にまたしても徳田のカットインプレーで1点差リードを保ったまま前半終了。

ハーフタイムでは、ディフェンスの修正点と効果的なオフェンスのコンビネーションについて確認。後半に臨む。

後半、土井のサイドシュートで先制。再び2点差リード。しかしその直後からカタルMARZOの高打点からのディスタンスシュートが次々に決まり、後半5分過ぎに逆転を許す。ここで日本はDFシステムを「5-1DF」に変更し、相手ディスタンスシュートを封じる作戦に出る。岩下の好セーブや、パワープレー時の玉川のポストシュートなど、必死に引き離されないようする日本は、後半12分過ぎにはハーフタイム時に確認したコンビネーションプレーから北詰が素晴らしい得点を決めるも、カタルの体格を生かした力強い個人技を防ぐ事が出来ず徐々に点差を広げられていく。その後もチャンスは創出するものの相手GK16番ABIDIの好セーブに合うなどして得点を加算できない日本はタイムアウトを後半20分に請求して、直後から7人攻撃を仕掛けて状況の打破を狙うもミスを生じさせてしまい効果的な攻撃が繰り出せない。結局そのまま流れを引き戻せずに28対36で敗戦となった。

前半の戦い方は評価に値するものの、前後半60分を通して一定のパフォーマンスを展開出来なかった点に付いては課題が見えた。明日の休息日を挟み、明後日からはいよいよメインラウンドがスタートする。初戦の相手はグループリーグC1位のサウジアラビア。メインラウンド突破・準決勝進出に向けて大切な1戦となる。現在可能な最高の準備をしてサウジアラビア戦に臨みたい。

【彗星ジャパン アジア選手権 第3戦 メインラウンド 1月20日】

日本代表 30 (16 - 10, 14 - 12) 22 サウジアラビア代表

得点者：柴山1点、杉岡1点、笠原2点、部位久1点、成田1点、徳田(新)1点、渡部3点、土井8点、元木3点、玉川1点、吉野6点、東江2点

アジア選手権3戦目。メインラウンド進出後、初戦の相手はサウジアラビア代表。グループリーグでも韓国代表を破り、1位でメインラウンドに進出。昨年の世界選手権(ドイツ・デンマーク)にもアジアを代表して出場した強豪国の一つ。

日本はGKに岩下。笠原、成田をセンターDF、2枚目DFに渡部と吉野、1枚目DFに元木と土井を配置した「6-ODF」でゲームスタート。

攻撃はプレーメーカーに東江、渡部と吉野がバックコート、元木と土井がサイド、ポストに笠原の布陣となった。

試合開始、DFと連携したGK岩下の好セーブで試合がスタート。そのまま成田が速攻でカットインから技ありの-spinシュートを決めて先制点。対するサウジアラビアもゲームメーカーのALABASが、日本のセンターDFが下がったところを見逃さずジャンプシュートを決める。しかし、元木が相手の速攻時にパスカットに成功し、そのまま持ち込み得点。DFではサウジアラビアの大型ポスト・ALIBRAHIM・ALTAWHEELにボールを集めてくるプレーに序盤から苦勞するものの、日本も失点の直後にクイックスタートから笠原のポストシュートなどで対抗する。その後も土井のカットイン、ループシュート、渡部のパスカットから元木に繋ぎ速攻、吉野、東江のミドルシュートなどで加点。前半20分には土井が相手のエンブティーゴールにシュートを決めて12対7の5点差。ここでサウジアラビア代表がタイムアウトを要求。タイムアウト直後に玉川の速攻が決まり6点差となるが、日本はサウジアラビアのクロス攻撃に大型ポストを連携させる戦術に対して、前半だけで5本の7MTを与えてしまい、それらを得点に結び付けられてしまう。しかし、サウジアラビアのパワープレーの際もGK岩下の好セーブによりピンチを凌ぐ。前半は16対10の6点差リードで終了。

ハーフタイムでは、大型ポストプレーヤーに対するディフェンスとオフェンス時のポイントについて意思統一を図り後半に備えた。

後半スタート5分、日本はシュートチャンスを創出するものの相手キーパーのセーブやシュートがポストに嫌われるなどして悪い流れが続く。その間にサウジアラビアに3連続得点を許してしまう。しかし、キャプテン土井がサイドから回り込んでミドルシュートを相手ゴールに突き刺し、この悪い流れを止めることに成功。その後、立て続けに部位久のミドルシュート、元木のサイドシュート、東江の2対2からカットイン、土井のサイドシュート、笠原のポストシュートで6連続得点。後半13分過ぎに23対14の9点差をつける。後半23分過ぎには徳田が7MTを落着いて決めるなど相手に主導権を握らせない戦いが続く。後半25分には吉野がミドルシュートを決め、終了間際には岩下の3連続好セーブから、速攻で柴山が決めて試合終了。30対22でのメインラウンド1勝目を飾った。なお、この試合のMOMには吉野が選出された。

明日以降もメインラウンドは続き、明日はバーレーン代表との戦いとなる。バーレーン代表は昨年10月に行われたオリンピックアジア予選で優勝しており既に東京オリンピックへの出場権も獲得している。メインラウンド突破・準決勝進出に向けては明日も大切な1戦となる。残された時間を最大限活用して明日のバーレーン戦に備えたい。

【彗星ジャパン アジア選手権 第4戦 メインラウンド 1月21日】

日本代表 25 (10 - 11, 15 - 12) 23 バーレーン代表

得点者：北詰1点、部位久2点、徳田(新)3点、渡部1点、土井1点、元木2点、吉野6点、東江9点

アジア選手権4戦目。メインラウンド進出後第2戦目の相手はバーレーン代表。昨年10月に行われたオリンピックアジア予選で優勝を飾り、アジア代表としてオリンピック初出場を決めている強豪国。Sigurdsson 監督就任以降、公式戦で過去3度の対戦があるが一度も勝利していない相手。(アジア選手権2018・21対29。アジア大会2018・20対31。世界選手権2019・22対23)

日本はGKに岩下。トップDFに東江、笠原をセンターDF、2枚目DFに渡部と吉野、1枚目DFに元木と土井を配置した「5-1DF」でゲームスタート。

攻撃はプレーメーカーに東江、渡部と吉野がバックコート、元木と土井がサイド、ポストに笠原の布陣となり、攻守で交代するメンバーを無くし攻守の切替えの速い展開を目指した。

試合開始。DFで相手のポストパスをカットするもルーズボールをサイドに繋がれ、そのまま先制点を許す。日本は速攻やセットオフenseでチャンスを創出するもゴールポストに弾かれ、または、相手GKのALI Mohamedにセーブされるなどしてなかなかリズムに乗れない時間が続く。さらには、バーレーン代表のキープレーヤーであるALSAYYAD Husainの個人技から失点を許すなど苦しい時間が続くが、ようやく前半5分過ぎにGK岩下のファインセーブから速攻で東江が決めて1点目。その後は一進一退の攻防が続くが、前半15分過ぎに北詰のミドルシュート、土井の速攻が連続で決まり6対5と逆転する。部位久のディスタンスシュート、東江の7MTで加点していくが、前半26分過ぎにはテクニカルミスからの連続速攻を許し、9対11の2点差まで逆転される。日本はここでタイムアウトを請求。タイムアウト後、日本は東江の個人技で得点。そのまま前半を10対11で終えた。

ハーフタイムではオフenseのポジショニング等とディフェンスについて再度チーム内で約束事の確認。また、日本でのメンタルトレーニング(立谷メンタルコーチ@国立スポーツ科学センター)で共有した、ベンチメンバーを含めてのゲームへの入り方や気持ちを強く持ち続けること等々についても意思統一を図り後半に備えた。後半開始、日本代表は数的優位のパワープレーの機会を生かせず、ALSAYYAD Husainの個人技で先制を許すものの、直後にクイックスタートから渡部が豪快にディスタンスシュートを叩き込みリードを広げさせない。東江の7MTが決まった直後に日本は一人退場の場面を迎えるが、バーレーン代表のフリーシュートをGK岩下が再びファインセーブ。直後に元木のサイドシュート、再びGK岩下のファインセーブから吉野のミドルシュートで日本は3連続得点。後半7分過ぎに14対13の逆転に成功する。その後一度はバーレーン代表に逆転を許すも、元木のサイドシュート、東江の速攻で再び逆転。日本代表リードの展開となる。後半16分からは吉野のカットイン、部位久の速攻、東江のミドルシュートで再び3連取。この試合初めて20対17の3点差リードとする。さらには、東江から徳田へのスカイプレーも決まり、バーレーン代表に反撃の機会を与えない。徳田のミドルシュート、ステップシュートで加点していき、後半残り4分には1点差まで詰められるものの、吉野のミドルで再び2点差。後半残り1分、1点リードの場面で日本は最後のタイムアウトを請求。その後、東江がテクニカルなスピニングシュートを決め、直後にバーレーン代表のクイックスタートをGK岩下がファインセーブして勝負あり。25対23での勝利。これでメインラウンド2連勝となった。なお、この試合のMOMには東江が選出された。

現アジア王者のバーレーン代表に対して勝利を飾ったが、この後に行われたサウジアラビア代表対UAE代表の試合でUAE代表が勝利したため、日本代表の準決勝進出・世界選手権出場権獲得はメインラウンド最終日(23日)まで持ち越しとなった。23日にはUAE代表との試合が控える。メインラウンド1位突破・準決勝進出に向けて次節の対UAE戦も気の抜けない重要な試合となる。明日22日は大会の休養日だが、次の試合まで充分な「ケア」と「休養」をして、万全の「分析」・「対策」を練った上で次戦に臨みたい。

【彗星ジャパン アジア選手権 第5戦 メインラウンド 1月23日】

日本代表 31 (18 - 13, 13 - 6) 19 UAE代表

得点者：杉岡1点、笠原1点、北詰2点、部位久3点、成田3点、徳田(新)3点、渡部1点、土井3点、元木5点、玉川1点、吉野2点、東江4点、徳田(廉)2点

アジア選手権5戦目。メインラウンド最終戦の相手はUAE代表。試合前、徳田(廉)を柴山と変更しメンバー登録。準決勝進出に望みを繋いでいるUAE代表はこの日本戦に大差での勝利が求められており、序盤からアグレッシブな試合展開が予想された。日本はバーレーン戦同様、GKに岩下。トップDFに東江、笠原をセンターDF、2枚目DFに渡部と吉野、1枚目DFに元木と土井を配置した「5-1DF」でゲームスタート。

攻撃はプレーメーカーに東江、渡部と吉野がバックコート、元木と土井がサイド、ポストに笠原の布陣。

試合開始。UAE代表サウスポーALBANNAIのディスタンスシュートに対して日本のDFのコンタクトが遅れてUAEが先制。直後にクイックスタートから得た7MTのチャンスを東江が落ち着いて決めるものの、UAE代表も日本のDFが消極的になったところを見逃さず、右サイドのALMHEIRIがサイドシュートを決めて先行する。しかし、日本代表は前半6分から東江の7MT、パワープレーから吉野のミドルシュート、元木のサイドシュート、土井の速攻、東江のステップシュート、土井の速攻で6連続得点。途中、UAE代表はタイムアウトを請求するも日本代表の良い流れを止める事は出来ず、前半13分過ぎには10対5の5点リードとなる。その後も、吉野のクイックスタート、GK岩下の好セーブから玉川の速攻、吉野のポストパスカットから成田の速攻の3連続得点も

あり、前半残り10分で17対9の展開。ここで日本代表は部位久と徳田の両バックコートプレーヤーを投入。直後に徳田、部位久が連続して得点。しかし、その後、巨漢ポストのALJNEIBIを起点とした攻撃に4連続得点を許すなど前半戦を18対13の5点リードで折り返す。

ハーフタイムでは、まず選手同士で気持ちを新たにに入れ替えることを確認して士気を高めた。戦術面ではディフェンスについて修正ポイントの確認。また、オフェンス時の効果的なコンビネーションと速攻時のボールの展開方法についても意思統一を図る。

後半開始、コンビネーションプレーから渡部のミドルシュートを皮切りに、土井の速攻、東江の7MT、GK岩下のセーブから東江が笠原に繋ぎそのままポストシュート、再びGK岩下のセーブから成田が持ち込みランニングシュート、GK久保のナイスセーブ(対サイドシュート)、杉岡のサイドシュート、北詰のカットインなど8連取で後半スタート10分過ぎには26対13となり、日本代表は徐々にメンバーの総入れ替えを行う。その後もこの日新たにメンバー登録された徳田(廉)の速攻や、杉岡から徳田(新)のスカイプレー、徳田(新)から徳田(廉)のスカイプレーも飛び出す。後半戦はDFも機能し始めて6失点のみ。31対19での勝利。メインラウンド3戦全勝となった。なお、この試合のMOMにはチーム最多の5得点を記録した元木が選出された。

これで、日本代表はメインラウンド3連勝となり、「メインラウンド・グループ1」の1位が確定。準決勝進出を決めるとともに上位4位以内が確定し、「世界選手権2021エジプト大会」の出場権を獲得。明日の休息日を挟み、明後日に「グループ2」の2位であった韓国代表と対戦することになった。

【彗星ジャパン アジア選手権 第6戦 準決勝 1月25日】

日本代表 32 (19 - 16, 10 - 13・延長2 - 2, 1 - 3) 34 韓国代表

得点者：笠原2点、部位久2点、成田1点、徳田(新)3点、渡部6点、土井4点、元木4点、玉川1点、吉野5点、東江4点

アジア選手権6戦目。準決勝。相手は韓国代表。試合前には柴山を徳田(廉)に変えて再度メンバー登録。日本は今まで同様、GKに岩下。トップDFに東江、笠原をセンターDF、2枚目DFに渡部と吉野、1枚目DFに元木と土井を配置した「5-1DF」でゲームスタート。

攻撃はプレーメーカーに東江、渡部と吉野がバックコート、元木と土井がサイド、ポストに笠原の布陣。攻守でのメンバー変更を無くし、バックチェックを速くすることにより韓国の速攻を防ぐ対策をした。

試合開始。韓国代表JEONGKWANJUNGとKIM JINYOUNGにディスタンスシュートを決められて0対2。日本も笠原のポストシュート。土井の速攻で2対2に追いつく。前半3分過ぎから、渡部のミドルシュート、元木のサイドシュート、吉野のディスタンスシュート、元木の速攻、サイドシュートで7対3。その後、韓国代表はタイムアウトを請求するも、対する日本代表は渡部、玉川、元木、渡部の4連打で11対4の7点差。そこから韓国代表もKIM JINYOUNGのミドルシュートやステップシュートなどで巻き返す。日本代表はGK久保の7メートルスロー阻止など見せ場を作るものの、前半終了間際、韓国代表に3連続得点を許すなどして点差を縮められて前半戦を19対16の3点リードで折り返す。

ハーフタイムでは、攻撃時には時間を有効に活用しながらゲームコントロールしていく事。ディフェンスではポスト対策とボールへの密集方法について再確認。

後半開始、笠原のポストシュート。渡部のカットインの2連打からスタート。その後は日本、韓国両国がお互い譲らず、加点していく。後半途中から日本代表は「6-0DF」にシステムを変更。日本はシュートチャンスを創出するものの韓国代表GKLEE CHANGWOOの好セーブに合い、得点を奪えない時間が続く。後半残り5分、ついに韓国代表に同点を許す。残り4分には逆転され1点リード。しかし、日本は東江の7メートルスロー、徳田(新)のミドルシュートで同点にする。対する韓国代表は残り50秒でタイムアウトを請求。日本代表の堅守に戸惑いを見せる韓国代表はスカイプレーを狙うも、成田がパスカット。そのままドリブルで持ち込み、逆転シュートを狙うが、惜しくも枠の外。直後に後半戦終了。60分間の前後半戦を同点で終え、延長戦(前半5分・後半5分)へ突入。

延長前半、土井、徳田(新)で逆転に成功。韓国代表もKIM DONGMYUNGのポストシュート、KIM JINYOUNGの7メートルスローで再度同点。

延長後半、日本のシュートチャンスを韓国代表GKLEE CHANGWOOの好セーブによって阻止されるなどし、また、溢れ玉が韓国代表に渡ってしまうなどの不運もあり、なかなか得点を伸ばせない。日本代表は徳田の(新)のカットインで一矢報いるも、結局試合は32対34で韓国代表の勝利。悔しい敗戦となった。この結果、明後日の最終日、日本は3位決定戦を舞台に戦うことになった。

対戦相手はもう一つの準決勝(カタール代表対バーレーン代表)の敗者であるバーレーン代表。既に世界選手権の出場権を獲得しているとはいえ気を緩めず、このアジア選手権の集大成となるべく、また、オリンピック、その先の世界選手権と未来につながる試合を展開したい。

【彗星ジャパン アジア選手権 第7戦 3位決定戦 1月27日】

日本代表 27 (14 - 15, 13 - 11) 26 バーレーン代表

得点者：柴山3点、杉岡1点、部井久1点、徳田(新)7点、渡部1点、土井2点、元木4点、玉川2点、吉野4点、吉田2点

アジア選手権7戦目。3位決定戦の相手はアジアの強豪国、バーレーン代表。メインラウンドでは25対23で勝利している相手

ではあるが、2017年2月のSigurdsson 監督就任以降、公式戦では1勝3敗の戦績。また、今夏開催される東京オリンピックには、アジア代表としてオリンピック初出場を決めている強豪国。(アジア枠は1枠・昨年10月のオリンピックアジア予選でバーレーン代表が優勝)一昨日に行われた準決勝・延長戦での惜敗から、如何にメンタル面・フィジカル面で立て直しを図るかがポイントであり、これまでの実施してきた全ての活動の真価が問われた1戦。

日本はこれまでの試合でなかなか出場機会に恵まれなかった若手選手に出場のチャンスが巡る。GKに岩下。トップDFに東江、笠原をセンターDF、2枚目DFに渡部と吉田、1枚目DFに柴山と杉岡を配置した「5-1DF」でゲームスタート。攻撃はプレーメーカーに東江、渡部と吉野がバックコート、柴山と杉岡がサイド、ポストに吉田の布陣。

試合開始。バーレーン代表に7MTを決められて先制を許す。日本代表も直後にこの大会初スターティングラインアップに名を連ねた柴山が個人技から得点。バーレーン代表はキーププレーヤーであるキャプテンの ALSAYYAD を中心に攻撃を組み立てる。対する日本も東江のリードから吉野のカットイン、柴山のサイドシュートで反撃。バーレーン代表もこの大会好調をキープしているバックコートプレーヤー MERZA のミドルシュートなどで加点し、前半6分過ぎから4連打。日本を引き離しにかかる。日本代表は吉田の獲得した7MTを東江が相手GK相手GKのALI(今大会オールスターチームにも選出)にセーブされるなど苦しい時間が続く。立て直しを図りたい日本はここで北詰を投入。ゲームの流れを変えることを試みる。杉岡の芸術的なループシュートの後、5対9となったところでタイムアウトを請求。ディフェンスについて修正・確認。その後、渡部のミドルシュートや、岩下の好セーブ、クイックスタートから吉田のポストシュート、玉川のポストシュートなどで、徐々に点差を詰めていき、8対10となったところで、バーレーン代表がタイムアウトを請求。しかし、タイムアウト終了後、元木のサイドシュート、速攻でさらに点差を縮める。前半28分には徳田(新)のパスカットから元木がよく繋ぎ、最後は徳田(新)が決めて14対14の同点。その後の攻撃でバーレーン代表 MERZA に決められ、14対15の1点ビハインドで前半戦終了。

ハーフタイムでは再度ディフェンスのポジショニングについて確認。特に前日のミーティングやトレーニングで確認した99番 ALSAYYAD に対して効果的にディフェンスを展開していく方法を再確認して、更に強く守る意識を高めた。

後半開始、MERZA、ALMAQABI に決められ先手を取られるも、岩下がノーマークシュートをセーブした後半5分過ぎから、日本代表はペースをつかみ始める。徳田のミドルシュートを皮切りに、部井久のカットインで得た7MTを徳田(新)が決める。岩下のファインセーブから柴山のサイドシュート。成田の速攻で得た7MTを徳田(新)が再び落ち着いて決めて4連続得点。遂に後半12分に18対17の逆転に成功する。対するバーレーン代表も ALSAYYAD を中心に反撃を試みるも、日本代表は後半16分から部井久のディスタンスシュート。GK久保の相手7MTをファインセーブ。吉野のディスタンスシュート。笠原の速攻で得た7MTを徳田(新)が決める。続けてGK岩下もファインセーブを連発。そのまま徳田(新)のブレイクスルーが決まり、再び4連打。後半22分で24対20の4点差リード。ここで堪らずバーレーン代表はタイムアウトを請求。直後、MERZA に強引にシュートを決められるも、クイックスタートから土井がサイドシュートを決めて相手の流れを断ち切る。不運な元木の退場もあり、その後、徳田(新)が攻撃時にストラクチャーを守れずシュートを打ってしまうなどして、相手に流れが行きかけるも、続く数的不利の場面で、吉野のパスカットから自身で速攻まで持ち込みシュートを決め、何とか持ち堪える。吉野は続く攻撃の場面でもディスタンスシュートを決めて27対24の3点差にする。その後、バーレーン代表に2連続得点を許すものの、最後は残り14秒で日本代表はタイムアウトを請求。タイムアウトでは残り時間の使い方・ゲームの終わらせ方について意思統一を図り、タイムアウト後から時間を上手く使いきりタイムアップ。27対26で勝利。現アジア王者のバーレーン代表に対して2連続勝利。アジア選手権銅メダル獲得となった。この試合のMOMにはこの日7得点を決めた徳田(新)が選出された。

昨年1月の世界選手権時には出来なかった「惜敗」からのメンタル面・フィジカル面で立て直しを図り、更には今まで出場機会に恵まれなかった若手選手が躍動するなど、オリンピック、その先の世界選手権と日本球界の未来につながる試合を展開することが出来た。

これで日本代表活動は一旦休止し、今週末からはアジア選手権のため中断していた日本リーグが再開される。引き続き、日本リーグでも熱戦を期待したい。

なお、大会のオールスターチーム(ベスト7)にキャプテンの土井が、また、大会ベストプレーヤー(MVP)には東江が選出された。

所感

「日本代表(彗星ジャパン)」は、今年度に入りアジア選手権まで計93日間(国内合宿63日間、国外合宿30日間)、国際親善試合14試合(国際Aマッチ7試合、対クラブチーム5試合、その他2試合)にわたり強化を進めてまいりました。結果、アジア選手権において3位となり、現段階でアジア王者奪還には届きませんでしたが、目標であった自力での世界選手権出場を2大会ぶりに獲得することができました。

最後に、大会期間中、日本において我々日本代表を応援してくださった皆様、更には日本代表活動をご支援いただいた関係する全ての皆様にこの誌面をお借りして御礼申し上げます。取り急ぎ甚だ簡単ではありますが、以上今大会のご報告とさせていただきます。大変お世話になりました。有難うございました。

PHOTO GALLERY メインラウンド第1戦：日本 vs サウジアラビア



PHOTO GALLERY メインラウンド第2戦：日本 vs バーレーン



PHOTO GALLERY メインラウンド第3戦：日本 vs UAE



PHOTO GALLERY 準決勝：日本 vs 韓国



PHOTO GALLERY 3位決定戦：日本 vs バーレーン





FIND YOUR WINNING COLOR

ジブンの勝ち色を見つけよう



NEW

アシックス イージーオーダーシステム

約**330億**通り

こだわりの
一足を作ろう!

HANDBALL SHOES
EASY ORDER SYSTEM



全日本社会人ハンドボールチャレンジ2020大会

開催期間 令和2年2月14日(金)～16日(日)
開催場所 鹿児島県霧島市隼人体育館 霧島市溝辺体育館
主催 (公財)日本ハンドボール協会、全日本社会人ハンドボール連盟
主管 全日本社会人ハンドボール連盟社会人委員会、鹿児島県ハンドボール協会
オフィシャルパートナー ヤマト運輸
協賛 株式会社モルテン

最終順位
優勝：Various 鹿児島(初優勝)
準優勝：柘の葉クラブ
3位：東ソー
4位：宮崎フェニックス



大会を振り返って

鹿児島県ハンドボール協会事務局 海江田 貴嗣

本年度の本県事業計画は、5月九州一般・女子クラブ選手権大会、7月九州工業高等専門学校大会(高専)、8月ジャパンオープントーナメント、9月日本選手権九州予選と2月全日本社会人チャレンジ大会でブロック以上の5事業を終えました。その間には、当然通常の県内事業も開催されています。

最も良かったことは、成年男子の強化状況を関係者以外も間近で見ることができ、スタッフ・選手を直接応援する機会に恵まれました。さらに、国体に向けて競技役員養成事業としても取り組めることができました。また、中・高校生が学年末考査期間中ということもあり、補助員で活躍してくれた鹿児島大学ハンドボールチームには、感謝致します。

競技役員養成として、競技開始前に「審判・TD研修会」を日本協会社会人連盟審判長の吉田敏明氏にお願いをした所、快く引き受けくださり、軽快な関西弁の語りには、鹿児島県協会役員は心地よく惹きつけられました。さらに成年種別の厳しさを味わえるまたとない機会に恵まれました。

本県は先述したように、10月に鹿児島国体を控え、成年男子の強化策としても、社会人連盟の工藤雄三氏へ大会招致をご相談させていただきました。特に本年度は、昨年11月に熊本女子世界選手権、日本選手権の男女別日程での運営、男子アジア大会、男女日本リーグの再開等、非常に過密なスケジュールの中にもかかわらず、この大会がここ鹿児島県霧島市で成功裏に終了できたことに本当に感謝申し上げます。

さらに、国内より16チームが鹿児島県霧島市へ集結されたことは、熱烈歓迎でした。最も遠くは関東より2022年柘木国体を控える柘の葉クラブ。今回、成年男子の強化策としてこの事業を招致した理由もこの柘の葉クラブの取り組みに刺激を受けたことは間違いありません。

他にも、2026年宮崎国体を目指すとともに、スタッフには男子ナショナルチームスタッフに名を連ねる北林健治氏率いる宮崎フェニックスなどが加わり、さらに大会常連チームを間近で見られることは鹿児島県協会関係者にとって最高の機会を得ることができました。



TD・審判研修会(講師吉田敏明氏)



代表者会議

戦況

準決勝

栃の葉クラブ(栃木県) 23(10-12、13-8)20 東ソー(山口県)

2023年に栃木国体を控え、早い段階から強化を進めている栃の葉クラブと山口県下松工業高校出身の20歳台の元気のいい東ソーとの対戦。前半9分過ぎまで東ソーサウスポー井上の速攻などが9対1とリードする立ち上がり。栃の葉はタイムアウトを請求後、元大同特殊鋼の岸川を攻守に起用し栃の葉小田のポストシュートなどで20分過ぎ3点差まで追いつけるが東ソーGK矢野のナイスセーブもあり12対10の2点リードで東ソーが折り返す。

後半たち上がり栃の葉の佐川のサイドシュート、岸川のカットインで同点。GK 鍋木のナイスセーブもあり、7分14対13と逆転。東ソーも粘り強く守ってからの速攻を仕掛け、9分栃の葉伊集院が2分間退場している間に、東ソー藤末のステップシュートで再逆転。20分には栃の葉川田のステップシュートで同点に追いつき、さらに藤里が速攻を決め2点差リードしたところで東ソーがタイムアウトを請求。東ソーは守りを修正にかかるが勢いの止まらない栃の葉が逃げきった。

準決勝

Various鹿児島 28(12-10、16-9)19 宮崎フェニックス

今シーズンに鹿児島県霧島市にて開催されたジャパンオープントーナメント(8月)、日本選手権九州予選(9月)以来3度目の対戦となる両チーム。2分過ぎに宮崎フェニックスが5番宮島のカットインで先制。Various 鹿児島は3分過ぎに三堂のサイドで同点に追いつくと、その後は宮崎フェニックスの若手コンビ中村、大川の7mTや宮崎が誇るGK陣に加え、ベンチを指揮するのは男子ナショナルチームスタッフでもある北林健治氏が元気に采配を振るう。Variousは攻守に期待のかかる米満を筆頭に藤田、今井を軸としたDF陣でお互いにシーソーゲームを展開し、12対10でVariousが2点リードで折り返す。

後半に入っても、Various9番内田のサイドシュートで加点すると17対12となり、宮崎が2枚目のタイムアウト請求。その後もVarious岩下のミドル左腕市田のサイドシュートが決まり、残り10分23対14となった時点で宮崎は3枚目のタイムアウト請求。宮崎はVarious米満にマンツーマンDFを敷き、追い上げを図るも28対19でVariousが決勝進出を決めた。

3位決定戦

東ソー(山口県) 25(13-11、12-13)24 宮崎フェニックス

準決勝敗退後、約1時間程度のインターバル後の3位決定戦を戦う宮崎フェニックスに対して、同じく準決勝で接戦を展開し敗退した東ソーとの必死の戦い。層の厚い宮崎は、若手の瀬戸口、下岡、本田、河野らに入れ替えながら抗戦するのに対して、アドバンテージのある東ソーはGK矢野を中心とした堅守速攻で応戦する中、11対13の2点リードで宮崎フェニックスが前半を折り返す。

ハーフタイムで丁寧に攻守の確認を確認した宮崎フェニックスは、中村を攻撃の軸に展開する中、東ソーも守ってからの速攻で一進一退のシーソーゲームが続く。残り30秒、25対24と東ソーが1点リードの場面で宮崎フェニックスはタイムアウトを請求、パスワークから中村がミドルを放つも東ソーDFがブロック、リードを守り切った東ソーが3位を獲得した。

決勝戦

Various鹿児島 25(9-14、16-6)20 栃の葉クラブ(栃木県)

今大会初出場が決勝進出、10月に地元国体を控えるVarious 鹿児島のスローオフで試合開始。Various 鹿児島 Various 主将の米満が先制。対する栃の葉クラブは、Various 鹿児島の攻撃ミスからVarious 佐川の速攻やサイド、Various 川田の速攻などで4連取して6対2とリードを奪う。Various 鹿児島三堂が速攻やGK久木野のノーマークシャットアウトなどで追いつけるが、栃の葉クラブの戻りながらのバックチェックもよく機能し、試合は栃の葉クラブのペースで進む。残り10分で9対6と栃の葉クラブの3点リードは変わらず、Various 鹿児島大山がミドルを決めると栃の葉クラブはリバウンドボールを押し込み、さらに伊集院の高打点シュートなどで加点、終始主導権を握った栃の葉クラブが前半を14対9で終了する。

後半15分、前半に引き続きGK久木野が堅守するVarious 鹿児島が6連取で15対14と逆転に成功する。なお藤田のミドル、久長のカットインで17対14とリードを3点に広げる。栃の葉クラブは16分ようやく後半1点目を右サイドからねじ込むとそこから3連取、17対17の同点に追いつく。残り10分で19対17とVarious 鹿児島が2点リード。さらに栃の葉クラブの退場に乗じて、Various 鹿児島大山のミドルが決まり、21対17と4点差に広げる。そこからは一進一退の攻防で3点差が続くが、内田の連取で締めくくったVarious 鹿児島が25対20で初優勝を飾った。

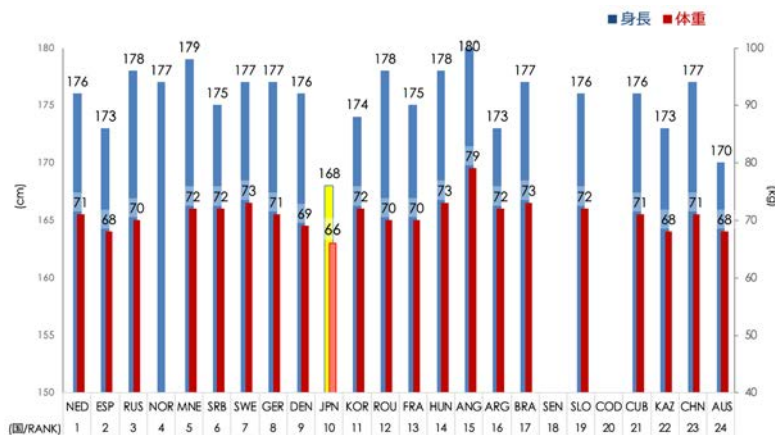
2019 女子世界選手権大会レポート②

おりひめジャパン 情報分析 嘉数 陽介

昨年12月に熊本でおこなわれました女子世界選手権について、先月号では大会を通じた日本のパフォーマンスの概要をデータで振り返りました。今月号では、多角度から部分的に取り上げて分析したものを共有したいと思います。

I. 日本と世界の体格差について(グラフ1)

各国の身長と体重をそれぞれ順位とともに比較すると、日本の数値はいずれも最低値を示しており、体格が最も小さいのは今大会も同様です。しかし体重においては、以前に比べてその差は縮まっていることが明白です。形態的に似通っている2位のスペインは、日本と約2kgしか差がありません。そういった意味で、小柄ながら結果を残しているスペインの戦術性には、日本の目指すべきヒントが隠れています。



II. 7人攻撃について

(1) データで振り返る日本の7人攻撃(表1)

今大会の日本の7人攻撃をデータで振り返ると、まず前大会と比べて使用回数が大幅に減少していることが分かります。また、成功率は前大会と比べて約6%低下していることが示されています。

	今大会 (2019) ※8試合		前大会 (2017) ※6試合	
使用回数	43回	1試合約 5回	75回	1試合約 12~3回
シュート数	26本	シュート成功率 70%	51本	シュート成功率 68%
得点数	14点	1試合約 2~3点	26点	1試合約 4.3点
7m獲得	4本		10本	1試合約 1.7本
ミ本数	13本	ミ発生率 30%	24本	1試合約 4本 (32%)
ゴール(失点)	7本中 5失点(QS:2)		14本中 5失点	
	成功率: 42%	失点率: 12%	成功率: 47.9%	失点率: 7%

表1. 日本の7人攻撃に関するデータ

(2) 7人攻撃に対する各国の守備について(写真1~3)

7人攻撃の成功率が前回に比べて伸びなかった要因を明らかにするには、データのみでは見えてこない質的な観点が重要になります。ここ数年、ルール改正により7人攻撃が増えて以降、同様に守備戦術も発展を続けています。そのため、攻撃では以前よりも詳細にこだわって精度を高めることが必須です。例えばスペインやモンテネグロは、1・2枚目の機能がより豊富になり、横パスに対するストレスのかけ方や、ボールスティールのタイミングが明らかに巧みになっていました。今後7人攻撃を活用する場合には、詳細な部分の精度を上げつつ機能を発展させていく必要があると考えられます。



写真1. 1枚目ディフェンダー



写真2. 2枚目ディフェンダー



写真3. 2枚目ディフェンダー

III. レフェリングについて

(1) ピヴォットの守り方に対する罰則の厳重化(写真4~5)

今大会は、レフェリングに関しても様々な傾向が見られました。特徴的な例の1つとして、ピヴォットプレイヤーの守り方に対する罰則の厳重化が挙げられます。写真のように、ライン際においてディフェンダーが相手ピヴォットプレイヤーを抱えるようなシチュエーションでは、例え正面をキープした位置関係であっても罰則が与えられることが多くなりました。ピヴォットプレイヤーは基本的にゴールに背を向けていることから、試合の中で瞬間的にディフェンダーが後ろから抱えるような場面は頻出します。しかし、海外の大型ピヴォットを腕を使わずに守りきることはほぼ不可能であるため、ボールを通された時点で高い確率で失点あるいは即退場に繋がります。今後はライン際の危険度に対する意識を更に高め、守備方法を徹底する必要があると考えられます。



写真4. ピヴォットを腕で抱えた場面



写真5. 即退場のジャッジ

銀座泰明小学校でハンドボール教室

—だれもが活躍できるハンドボールを体験!!—

(公財) 日本ハンドボール協会普及委員長 山本 繁

1 概要

1月17日(金)、数年前テレビでもちょっと話題になった中央区立泰明小学校で、ハンドボール体験教室が開催されました。この事業は、日本ハンドボール協会副会長の野呂洋子氏が、本業である美術関係のつながりで泰明小学校に図画工工作科で関わっていることから、今回「ハンドボール教室」開催が実現したものです。野呂副会長の「超都会っ子の泰明小学校の子供達にハンドボールを体験させより元気にしたい!」「小学生のハンドボールを泰明小学校からも発信したい!」という熱い想いが、校長先生をはじめ担任の先生方の心を動かしました。

この日は一日参観日で、保護者や他教科のゲストティーチャーも多数来校していて、あまり広くない校舎や校庭にたくさんの方の参観者がいました。

ハンドボール教室は、2時間目と3時間目に体育館(17m×17mほどの広さ)で、4年生を対象に行いました。指導者は、バルシューレを専門とする福士唯男氏が中心となり、小坂哲英氏と安藤裕一氏がサポート・レフェリーをする形で行われました。

2 子供達の様子

4学年は2クラスでそれぞれ27名の子供達が在籍しています。体験教室では、1チーム4～5人のチームを6つ作り、リーグ戦形式で行いました。

まずはじめに準備運動として、ボール操作に慣れるいろいろなキャッチやキャッチボールを一人や二人組で行いました。二人組でボール2個を使ったキャッチ遊びは、ボールから目を離して動作を入れるものもあり、どんどん難しい運動になっていきましたが、子供達は真剣に取り組みどんどん上達していきました。

今日行うハンドボールのルール説明を聞いた後、すぐにゲームに入りました。

<ルール> (*コートの広さは、16m×7mほど)

- 1 チームは4人。1人はゴールキーパー。
- 2 攻撃は、キーパーも入れて4人で。(攻撃有利の4対3のゲームになる)
- 3 コートのハーフラインを越えてシュートする。
- 4 全員がボールに触ってからシュートする。(※3時間目のゲームでは撤廃)
- 5 ただし、キーパーがシュートを止めたとき、相手ゴールが空いていたらキーパーからロングシュートしてもよい。その得点は2点。
- 6 ゴールエリアラインは、ゴールから約4m離れた直線。(ラインが体育館になく、マーカーを両わきに置いて、アウトに行われた) エリアの内側には、キーパー以外は入ることができない。
- 7 シュートを決めた者がキーパーになる。
- 8 ドリブルはなし。3歩まで歩くことができる。
- 9 ディフェンスは、プレーヤーに触ってはいけない。
- 10 ゲーム時間は、約5分。



少し多めのルールでしたが、子供達はすぐにほとんどを理解しレフェリーに指導を受けながらハンドボールを楽しんでいました。やはり最初は動きが硬かったものの、徐々にお互いに声をかけ合いパスを回したり、ジャンプシュートをする子も出てきて、大変盛り上がったゲームとなりました。特に、女子も積極的にシュートしたり動き回ったり、ゴールキーパーでも意欲的に動いたり、他のボールゲームではなかなか見られない『全員が活躍するボールゲーム』となりました。

銀座泰明小学校でハンドボール教室—だれもが活躍できるハンドボールを体験！！—

これは、①片手で握ることができるボール、②子供の実態に合わせたルール、③自由度の高いハンドボールの特性、これら3つの要素が、泰明小学校の子供達の潜在能力を引き出したのだと思います。さらに、指導者の福士氏の上手な言葉かけや指示・指導で、全員が意欲的にゲームに参加していました。活動すべてが素晴らしく、気持ちの良い光景を見ることができました。最後のゲームでは、負けて悔し涙を見せる子もいて、でも全員がとても素敵な笑顔で満足感溢れる様子で体育館を後にし、とてもエキサイティングな体験教室でした。

3 ハンドボールの魅力を伝えよう！

(1) ハンドボールの魅力を確認しよう

ハンドボール授業を全国の学校に広めるためには、まずは指導者が以下のハンドボールの魅力をしっかり理解し、その魅力を熱く、しかし簡単に説明する必要があります。

<ハンドボールの魅力>

- ①思い切りボールを投げる爽快なシュート ⇒ 気持ちいい～！！
- ②ボールを手で扱い操作が簡単 ⇒ ミスが少ない 作戦やプレー意図が成功
- ③ボールを持って、自由に動き回れる ⇒ 戦術学習ができる
- ④ルールや場の工夫がしやすい ⇒ 子供の実態に合わせた教材化ができる
- ⑤走・跳・投のバランスの良い運動 ⇒ さらにかわす・騙す ⇒ 頭を使う

今回の福士さんの指導は、まさに「指導者の熱意（ハンド愛）が子供達に伝わった」賜物でしょう。

(2) 研究授業で人気のハンドボール

小中学校の体育授業で研究会や公開授業があると、ボール運動領域ではハンドボールは必ずあります。文部科学省の全国学校体育研究大会では毎年ハンドボール授業が公開されています。上記の魅力が浸透してきている証拠です。

(3) 体育の授業で実践するためには

しかし、全国津々浦々となれば、まだまだ広まっているとは言えません。ハンドボール授業を学校で普及させるためには、以下の4点のポイント押さえておきましょう。

- ①簡単なルールと準備 だれでもできる授業
- ②上記のハンドボールの魅力を生かす授業（*全部でなくてもよい）
- ③学習内容があり、子供達が向上すること
- ④6～8時間の計画をしっかり提案し、その学校の年間カリキュラムに明記されること

(4) インフォメーション

日本ハンドボール協会には、「学校体育専門委員会」がありハンドボール授業のプロが揃っています。「小学生委員会」も協力してくれます。授業をしたいとき、困ったとき、質問があるときは、遠慮なくご相談ください。

また全国には、福士唯男氏のような素晴らしい指導をしてくれる方々もたくさんいます。

日本のハンドボール界は、全国に良い人材がたくさんいます。ぜひ活用してください。

お問い合わせは、日本ハンドボール協会または各都道府県協会にお気軽に！

 OSAKI



mind

豊かな明日を切り開く、大崎マインド。

限られた資源だから、有意義に使っていききたい。

命あるものたちが共存する地球だから、

快適な環境を守っていききたい。

計測・制御の専門メーカーとして時代をリードする大崎は、

ユニークな発想と探究心で省エネ、省力化機器など、

つねに技術革新をこころがけています。

大崎電気工業株式会社

本社 〒141-8646 東京都品川区東五反田2-10-2 東五反田スクエア TEL.(03)3443-7171(代表)



7対6の攻撃

特定の試合状況においてのみ戦術的な選択肢になる

ディートリッヒ シュペーテ (IHF 技術委員会委員長)

翻訳者: 榎 浩輔, 平本 恵介, 服部 友郎, 小俣 貴洋, 中山 紗織, 福田 丈, 藤本 元, 會田 宏, 山田 永子 (筑波大学)

この記事は『Special edition of the IHF Technical Magazine 2019 – Analysis of the 2019IHF Men’s Handball World Championship』の32-44ページに掲載された“Playing seven against six – A tactical option only for certain match situations”の翻訳である。著者はIHF CCM ChairmanのDietrich Späte氏であり、2019年男子世界選手権大会における「7人攻撃」(ゴールキーパーに代えてコートプレーヤーを使う攻撃)の実態、課題、展望について、詳細なゲーム分析結果をもとに述べている。

1. はじめに

リオデジャネイロで開催された2016年のオリンピックで、ゴールキーパーの代わりにコートプレーヤーをコートに入れる戦術が導入された。この戦術はそれ以前にも使用することは可能であったが、使用するチームはほとんどなかった。

リオ・オリンピックでは、史上初めてハンドボールの観客数がサッカーに次いで第2位になった。多くの観客や他スポーツ連盟のメンバーたちは、この戦術の使用に関して非常に好意的に評価した。試合の中で新しく、時に華やかな状況や期待を持てる瞬間を作り出していたためである。

しかし、続く2017年から2018年の世界選手権では、ほんの数チームだけしか7人攻撃を行わなかった。2017年にアルジェリアで開催された男子ジュニア世界選手権の準決勝戦では、デンマークが試合を通じて7人攻撃を行い、フランスに勝利した。しかし、IHFが主催する大会で初めて成功した「7対6の試合」は例外であった。結局デンマークはスペインとの決勝戦において7人攻撃を行って敗退している。

過去2年間、この7人攻撃の長所と短所について盛んに議論が行われてきた。しかし、多くの場合、試合の中でゴールキーパーの代わりにコートプレーヤーをコートに入れることの戦術的可能性について、生起率や成功率を基にした根拠はなかった。IHFのパートナーであるSwiss Timingと協力し、2019年にドイツとデンマークで開催された男子世界選手権の全96試合を分析・評価した。試合中の選手交代(ゴールキーパーとコートプレーヤー、コートプレーヤーとコートプレーヤー、ゴールキーパーとゴールキーパー)の分析に加えて、様々なエンプティゴール(ゴールキーパーがコートにいない)状況の生起率、タイミングおよび成功率などを、以下の3つに分けて分析した。

—7対6の攻撃プレー

—6対6の攻撃プレー(2分間退場の際のエンプティゴール)

—その他、エンプティゴールの攻撃プレー(例えば、退場によって両チームとも5人でプレーする時に、エンプティゴールにした6対5)

以下にこれらの様々なエンプティゴールの状況でのプレーの生起率や成功率などの概要を示す。

2. ゲームの定量分析結果

2.1 2019年世界選手権においてどのチームが7人攻撃を使用したか

表1は参加24チームの7人攻撃を行った試合の概要である。ここでは以下のことが分かる。

—2017年決勝戦に進んだフランスとノルウェーを含む6チームは7人攻撃を行わなかった。

—それ以外では6チームが非常に稀に(1試合か2試合で)7人攻撃を行った。

—マケドニア(少し頻度は下がるがクロアチアとバーレーン)は7人攻撃を行った。

—ドイツは10試合中6試合で7人攻撃を行った。しかし、非常に特殊な試合状況下で散発的に行った。

この概要は2019年世界選手権においてほとんどのチームが7人攻撃を行ったこと、ただし、それが稀にしか行われなかったことを表している。

頻度	チーム							%
全試合	MKD							4.2
(7/7)								
全試合の95%以上	CRO	BRN						8.3
(8/9)	(6/7)							
全試合の75%以上	GER	JPN						8.3
(6/10)	(5/7)							
全試合の50%以上	DEN	SWE	TUN	CHI	SRB	ARG	AUT	29.2
(3/10)	(3/9)	(4/8)	(3/7)	(3/7)	(3/7)	(3/7)	(3/7)	
全試合の25%以上	ESP	EGY	BRA	HUN	ISL	ANG		25
(2/9)	(2/9)	(2/8)	(2/8)	(1/8)	(1/7)			
なし	NOR	FRA	QAT	RUS	KSA	COR		25
(0/10)	(0/10)	(0/7)	(0/7)	(0/7)	(0/7)	(0/7)		

2.2 7人攻撃の生起率と成功率

図1に2019年世界選手権の全試合における7人攻撃の生起率と成功率の概要を示す。全96試合で合計10,000回の攻撃があった(1試合あたり104.2回)。このうち386回(全攻撃のうち3.86%)7人攻撃があった(1試合あたり4.0回)。

7 対 6 の攻撃：特定の試合状況においてのみ戦術的な選択肢になる

驚くことに、この少ない 7 人攻撃のうち 111 回（全ての 7 人攻撃の 28.8%）はマケドニア 1 チームが行っていた。

1 試合あたり 7 人攻撃による得点は平均 2 点であった（2019 年世界選手権の総得点のうち 3.59%）。7 人攻撃はこれ以上成功しない！

図 1 左下は、全ての 7 人攻撃と他のエンプティゴール状況の成功率を示している。ゴールキーパーを入れたままの攻撃成功率は平均で 53.0% であったが、7 人攻撃の成功率はそれよりも低く平均 48.71% であった。

7 人攻撃は高いリスクを背負ってプレーをする必要がある。チームが突然ボールを失った場合（ミス、活動的なディフェンスによるターンオーバー）、または相手チームがクイックスローオフを行った場合、エンプティゴールに速攻を仕掛けることができる。

図 1 右下は 7 人攻撃のあとの相手チームの得点の割合を示している。全ての 7 人攻撃の 14% において、攻撃終了後に相手チームがエンプティゴールへの攻撃を成功させている。

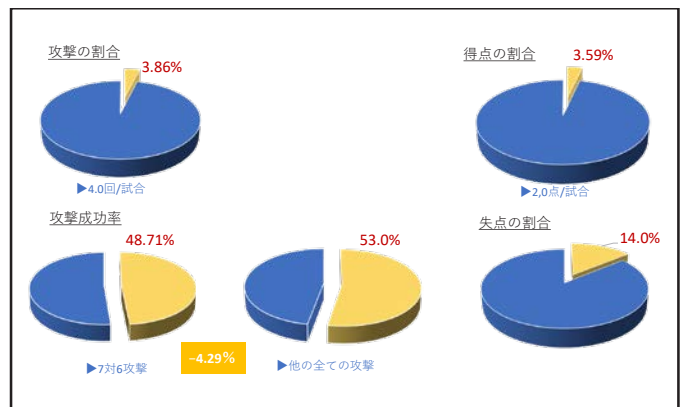


図 1 7 対 6 攻撃の分析（96 試合）

2.3 6 対 6 の攻撃における生起率と成功率の分析（退場時のエンプティゴール状況）

図 2 は 6 対 6 の攻撃の生起率と成功率の概要を示している。この攻撃は、2 分間の退場時、エンプティゴール状況である。

2019 年世界選手権の 10,000 回の攻撃では、エンプティゴール攻撃は合計 790 回（全攻撃の 7.9%）あった。それを行ったチームは 1 試合あたり 8.2 回、ゴールキーパーなしの 6 対 6 でプレーしている（平均して 1 試合あたり 3.8 得点）。

2 分間退場の間、全 24 チームがゴールキーパーに代わって 6 人目のコートプレーヤーをコートに入れた。しかし、リスクが大きいため成功するわけではない。

- ・エンプティゴール 6 対 6 攻撃の成功率は 46.08% であったため、コートプレーヤーの代わりにゴールキーパーを入れない攻撃の成功率よりも約 7% 低かった。
- ・エンプティゴール 6 対 6 攻撃の直後の失点の割合（図 2 右下）も注目し得る。全ての 6 対 6 攻撃の 15.29% において、攻撃後に相手チームが素早い速攻によって得点している。

5 対 6 の攻撃成功率は非常に低かったことにも注目する必要がある。

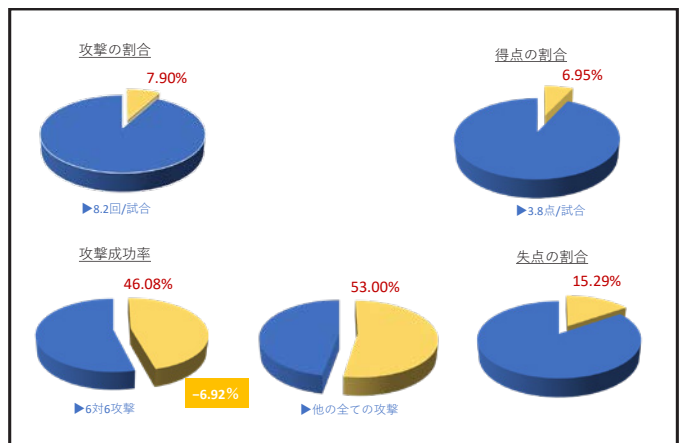


図 2 エンプティゴール 6 対 6 攻撃の分析（96 試合）

2.4 全てのエンプティゴール攻撃の生起率と成功率の全体的な分析

図 3 はゴールキーパーをコートプレーヤーに代えた攻撃の合計回数の概要を示している。これは一方または両方のチームに対する 2 分間の退場から生じる全ての数的関係を含む。特に、この数的関係では、6 対 5 のような状況を招くことが非常に多い（両チームの退場時）ため、通常は少し効果的であった。

2019 年世界選手権における全攻撃の 13.5% で、ゴールキーパーの代わりにコートプレーヤーをコートに入れた（1 試合あたり 14.1 回）。全てのゴールの 12.52% はこの攻撃による（1 試合あたり 6.8 点）。

一般に、エンプティゴール攻撃の成功率（平均で 48.59%）は、他の全ての攻撃の成功率（53.0%）よりも 4% 以上低くなっている。

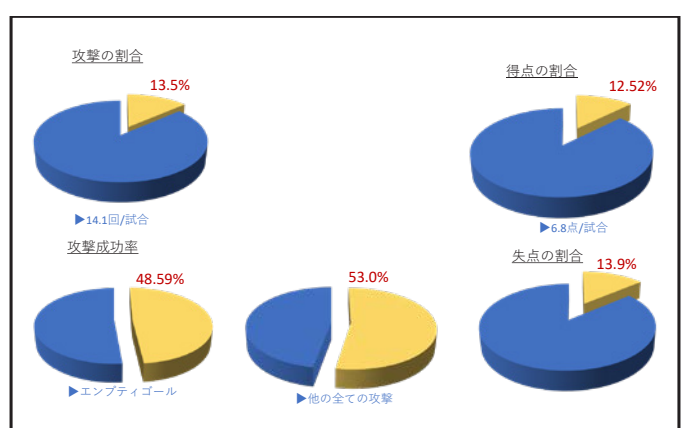


図 3 エンプティゴール攻撃の分析（96 試合）

2.5 順位別のエンプティゴール攻撃の分析

世界選手権での最終順位を以下の 3 つのグループに分類して、全てのチームの結果を計算した。

- ・1～8 位のチーム
- ・9～16 位のチーム
- ・17～24 位のチーム

表 2 は、これら 3 つのグループの結果を示している。攻撃成功率の比較は特に興味深い。7 対 6 でプレーした場合、1 位から 8 位のチームは 57.7% と、他の全てのチームよりも非常に高い数値であった。この良い結果は、たった 1 つのチーム（新しいチャン

7対6の攻撃：特定の試合状況においてのみ戦術的な選択肢になる

ピオンであるデンマークの74.3%)の影響が強いことに注意する必要がある(表3.1参照)。ただし、3つのグループ全てで、エンブティゴール

	7対6			エンブティゴール6対6			その他			エンブティゴールの全攻撃				全て
	攻撃成功率	攻撃の割合	得点の割合	攻撃成功率	攻撃の割合	得点の割合	攻撃成功率	攻撃の割合	得点の割合	攻撃成功率	攻撃の割合	得点の割合	失点の割合	他の全ての攻撃
1位~8位	57.7%	2.7%	2.7%	47.5%	7.3%	6.0%	66.2%	1.8%	2.1%	52.6%	11.8%	10.8%	13.5%	58.1%
9位~16位	45.3%	5.7%	5.1%	49.5%	8.7%	8.4%	54.0%	1.6%	1.7%	48.4%	16.0%	15.2%	14.8%	51.4%
17位~24位	45.6%	3.4%	3.3%	40.3%	7.9%	6.7%	59.6%	1.6%	2.0%	44.0%	12.9%	12.1%	13.4%	47.8%

ール7対6攻撃およびエンブティゴール6対6攻撃は、他の全ての攻撃(ゴールキーパーを代えない)の成功率に及ばない。

ここでは、「その他」のみが他の全ての攻撃より効果的であった。ただし、攻撃の総数に占める割合はわずか(1.6%~1.8%)である。これは前述のように、ほとんどの場合、同時に複数人が退場した時におけるエンブティゴール6対5の攻撃である。

2.6 ベスト8チームにおけるエンブティゴール攻撃の分析

以下では、個々のチームの結果を詳しく見ていく。表3.1aおよび表3.1bは、ベスト8のチームの結果を示している。

表3.1aは、様々なエンブティゴール状況の結果を示している。それは、デンマークとクロアチアだけが7対6でプレーしたことを示している。デンマークは、これまでで最高の攻撃成功率を達成した(74.3%)。ただし、デンマークは、予戦ラウンドで2回(オーストリアとノルウェーに対して)、メインラウンドで1回(エジプトに対して)しか7対6でプレーしなかった。デンマークは、残りのトーナメント戦のためのテストや準備としてそれを行っていたとみなしてもよい。準決勝戦および決勝戦は、早い段階で勝負が決まってしまったため、リスクの高い7対6をプレーする必要はなくなった。

一方ノルウェーとフランスは7対6攻撃を行わなかったが、ドイツなどの他のチームは特定の試合状況でのみ、この戦術オプションを使用した。

ただし、8チーム全てが、同等の頻度(攻撃全体の平均7.3%)でエンブティゴール6対6攻撃を行った。

しかし、これらの攻撃が時々全く効果的でなくなることは興味深い。準優勝のノルウェーは、エンブティゴールの37回の攻撃において32.4%という非常に悪い成功率であった。他の攻撃(ゴールキーパーを代えない)の成功率と比較した場合、数字上はクロアチアのみが良い結果(58.1%)を記録した。

表3.1bは、全てのエンブティゴール攻撃の分析結果を示している。

チャンピオンのデンマークのみが、他の攻撃よりもエンブティゴール攻撃で効果的な数値を示した(71.4%~61.9%)。他の全てのチーム、特にノルウェー(38.3%~63.3%)、ドイツ(46.6%~58.5%)、スウェーデン(47.7%~58.9%)、エジプト(45.5%~53.3%)の結果は悪い。

フランスによるエンブティゴール攻撃のほぼ4分の1は、相手にダイレクトゴールによって得点される(23.3%)ことは興味深い結果である。

2.7 9位から16位、17位から24位のチームによるエンブティゴール攻撃の分析

表3.2aおよび表3.2bは、9位から16位のチームの結果を示している。表3.3aおよび表3.3bは、17位から24位のチームの結果を示している。

9位から16位のチームのうち、マケドニア(チームの攻撃の29.1%)とチリ(チームの攻撃の13.4%)だけが7対6を多用した。チリだけが、ゴールキーパーを代えない攻撃の成功率と比較して、わずかに優れた成功率を記録した。ブラジル(58.3%)、特にカタル(61.3%)は、エンブティゴール6対6攻撃が非常に効果的であったことに注目する必要がある。

表3.1a エンブティゴール攻撃の分析—1位~8位(WCh2019 GER/DEN)

順位	チーム	7対6					エンブティゴール6対6				他のエンブティゴール			
		7対6を使用した試合	攻撃回数/得点	攻撃成功率	攻撃の割合	得点の割合	攻撃回数/得点	攻撃成功率	攻撃の割合	得点の割合	攻撃回数/得点	攻撃成功率	攻撃の割合	得点の割合
1	DEN	3	35/26	74.3%	7.0%	8.2%	38/24	63.2%	7.6%	7.6%	18/15	83.3%	3.6%	4.7%
2	NOR	-	-	-	-	-	37/12	32.4%	7.0%	3.7%	10/6	60.0%	1.9%	1.9%
3	FRA	-	-	-	-	-	36/18	50.0%	7.1%	6.5%	7/4	57.1%	1.4%	1.4%
4	GER	6	12/6	50.0%	2.5%	2.2%	46/23	50.0%	9.7%	8.6%	15/5	33.7%	3.2%	1.9%
5	SWE	3	5/2	40.0%	1.1%	0.7%	34/15	44.1%	7.2%	5.5%	5/4	80.0%	1.1%	1.5%
6	CRO	8	48/23	47.9%	10.6%	9.2%	31/18	58.1%	6.9%	7.2%	6/45	66.7%	1.3%	1.0%
7	ESP	2	2/12	50.0%	0.4%	0.4%	26/12	46.2%	5.4%	4.4%	3/3	100%	0.6%	1.1%
8	EGY	2	2/2	100%	0.4%	0.8%	34/12	35.3%	7.4%	5.0%	7/6	85.7%	1.5%	2.5%
計	-	-	104/60	57.7%	2.7%	2.7%	282/134	47.5%	7.3%	6.0%	71/47	66.2%	1.8%	2.1%

最高の結果 最低の結果

表3.1b エンブティゴール攻撃の分析—1位~8位(WCh2019 GER/DEN)

順位	チーム	エンブティゴールの攻撃					比較		結果
		攻撃回数/得点	攻撃成功率	攻撃の割合	得点の割合	失点の割合	エンブティゴールの攻撃	他の全攻撃	
1	DEN	91/65	71.4%	18.3%	20.5%	5.5%	71.4%	61.9%	+
2	NOR	47/18	38.3%	8.8%	5.5%	19.2%	38.3%	63.3%	-
3	FRA	43/22	51.2%	8.5%	7.9%	23.3%	51.2%	55.1%	-
4	GER	73/34	46.6%	15.4%	12.6%	16.4%	46.6%	58.5%	-
5	SWE	44/21	47.7%	9.3%	7.7%	9.1%	47.7%	58.9%	-
6	CRO	85/45	52.9%	18.9%	18.0%	14.1%	52.9%	56.0%	-
7	ESP	31/16	51.6%	6.5%	5.8%	16.1%	51.6%	57.5%	-
8	EGY	44/20	45.5%	9.6%	8.3%	11.4%	45.5%	53.3%	-
計	-	458/241	52.6%	11.8%	10.8%	13.8%	52.6%	58.1%	-

最高の結果 最低の結果

7対6の攻撃：特定の試合状況においてのみ戦術的な選択技になる

17位から24位のチームの中で、バーレーンと日本だけがいくつかの試合で7対6をプレーした。ただし、攻撃総数と比較すると、割合はとても低い（それぞれ11.4%と8.1%）。

7対6でプレーする場合の攻撃成功率は50%であるため、日本は依然として比較的良好な結果を達成している。

2つのチーム（韓国とアンゴラ）のみ、全てのエンブティゴール攻撃が、ゴールキーパーを代えない他の攻撃よりも効果的である。

2.8 7対6攻撃の詳細な分析（全攻撃の5%を超えて7対6を使用したチーム）

表4は、攻撃の5%を超えて7対6攻撃を行ったチームの結果を表している。世界選手権では、たった一つのチーム（マケドニア）が頻繁に7対6でプレーした。全ての攻撃の約30%を占めたが、著しく悪い結果（45.9%～52.5%）であった。チリとデンマークを除いて他の全てのチームは7対6でプレーした場合、攻撃の成功率は同様に悪かった。クロアチアを除いて、エンブティゴール6対6の結果も著しく悪かった。例えば日本はたった32.0%の成功率だった。チームが7対6攻撃を行ったとき、

全てのターンオーバーを記録した。これによると、7対6攻撃の20.5%でバーレーンはボールを失い、その結果、相手はすぐにエンブティゴールに速攻を開始した。世界チャンピオンのデンマークはターンオーバーの割合が突出して低かった（2.9%）！そのため決められたダイレクトゴールの割合も他のチームと比較して非常に低かった（5.7%）。

3. 結果の評価と実践現場への考察

3.1 7対6攻撃

数年前、多くのコーチや専門家は、攻撃が「将来は7対6攻撃のみになるだろう」と恐れていた。ところが、7対6攻撃は全ての攻撃のうち3.86%しかない。

これは非常に小さな割合であり、原則として4つのチーム（マケドニア、チリ、クロアチア、バーレーン）のみが、この特定の戦術オプションをより頻繁に使用した。2016年以来、7対6攻撃のプレーの重要性はIHF大会ではほとんど変わらず低いということを目に置いておいてほしい。

7対6攻撃の成功率に関しては、明確な結果もある。世界チャンピオンのデンマークのみが戦略的に成功した7対6攻撃を行っている。いくつかの例外はあるが、他の全てのチームの攻撃成功率はかなり低い！デンマークがこれほど成功しているのはなぜだろうか？以下に挙げるようなプレーの質が要因である。

- ・他のチームとは異なり、デンマークのバックコートプレーヤーは、相手の防御に

表 3. 2a エンブティゴール攻撃の分析—9位—16位 (WCh2019 GER/DEN)

順位	チーム	7対6					エンブティゴール6対6				他のエンブティゴール			
		7対6を使用した試合	攻撃回数/得点	攻撃成功率	攻撃の割合	得点の割合	攻撃回数/得点	攻撃成功率	攻撃の割合	得点の割合	攻撃回数/得点	攻撃成功率	攻撃の割合	得点の割合
9	BRA	2	2/0	-	0.5%	-	36/21	58.3%	8.3%	9.9%	6/1	16.7%	1.4%	0.5%
10	HUN	2	4/3	75.0%	1.0%	1.3%	39/19	48.7%	9.9%	8.4%	6/3	50.0%	1.5%	1.3%
11	ISL	1	2/0	0.5%	-	-	34/15	44.1%	8.7%	7.3%	9/7	77.8%	2.3%	3.4%
12	TUN	4	9/4	44.4%	2.1%	2.0%	28/12	42.9%	6.5%	5.9%	4/1	25.0%	0.2%	0.5%
13	QAT	-	-	-	-	-	31/19	61.3%	8.6%	9.7%	3/3	100%	0.8%	1.5%
14	RUS	-	-	-	-	-	43/21	48.8%	11.6%	11.1%	2/0	-	-	-
15	MKD	7	111/50	45.1%	29.1%	26.2%	27/12	44.4%	7.1%	6.3%	8/5	62.5%	2.1%	2.6%
16	CHI	3	53/25	47.2%	13.4%	13.4%	37/17	46.0%	9.3%	9.1%	12/7	58.3%	3.0%	3.7%

表 3. 2b エンブティゴール攻撃の分析—9位—16位 (WCh2019 GER/DEN)

順位	チーム	エンブティゴールの全攻撃					比較		
		攻撃回数/得点	攻撃成功率	攻撃の割合	得点の割合	失点の割合	エンブティゴールの攻撃	他の全攻撃	結果
9	BRA	44/22	50.0%	10.1%	10.4%	13.6%	50.0%	48.5%	+
10	HUN	49/25	51.0%	12.4%	11.1%	12.3%	51.0%	57.6%	-
11	ISL	45/20	44.4%	11.5%	9.7%	24.4%	44.4%	53.7%	-
12	TUN	41/17	41.5%	9.5%	8.3%	12.2%	41.5%	47.8%	-
13	QAT	34/22	64.7%	9.4%	11.2%	14.7%	64.7%	53.1%	+
14	RUS	45/21	46.7%	12.2%	11.1%	15.6%	46.7%	51.7%	-
15	MKD	146/67	45.9%	38.2%	35.1%	15.1%	45.9%	52.5%	-
16	CHI	102/49	48.0%	25.8%	26.2%	12.8%	48.0%	46.9%	+

表 3. 3a エンブティゴール攻撃の分析—17位—24位 (WCh2019 GER/DEN)

順位	チーム	7対6					エンブティゴール6対6				他のエンブティゴール			
		7対6を使用した試合	攻撃回数/得点	攻撃成功率	攻撃の割合	得点の割合	攻撃回数/得点	攻撃成功率	攻撃の割合	得点の割合	攻撃回数/得点	攻撃成功率	攻撃の割合	得点の割合
17	ARG	3	13/7	63.6%	3.7%	4.1%	25/11	44.0%	7.1%	6.4%	4/0	-	1.1%	-
18	SRB	3	7/1	14.3%	1.9%	0.5%	33/16	48.5%	8.9%	8.6%	5/4	80.0%	1.4%	2.1%
19	AUT	3	11/4	36.4%	3.0%	2.3%	37/13	35.1%	10.1%	7.6%	3/2	66.7%	0.8%	1.2%
20	BRN	6	39/18	46.2%	11.4%	11.2%	35/14	40.0%	10.3%	8.7%	9/4	44.4%	2.6%	2.5%
21	KSA	-	-	-	-	-	36/13	36.1%	9.2%	7.5%	7/4	57.1%	1.8%	2.3%
22	COR	-	-	-	-	-	15/7	46.7%	4.0%	4.0%	5/4	80.0%	1.4%	2.3%
23	ANG	1	1/1	100%	0.3%	0.6%	27/12	44.4%	6.9%	6.6%	4/3	75.0%	1.0%	1.7%
24	JPN	5	30/15	50%	8.1%	8.6%	25/8	32.0%	6.8%	4.6%	15/9	60.0%	4.1%	5.1%

表 3. 3b エンブティゴール攻撃の分析—17位—24位 (WCh2019 GER/DEN)

順位	チーム	エンブティゴールの全攻撃					比較		
		攻撃回数/得点	攻撃成功率	攻撃の割合	得点の割合	失点の割合	エンブティゴールの攻撃	他の全攻撃	結果
17	ARG	42/18	42.9%	11.9%	10.4%	4.8%	42.9%	49.8%	-
18	SRB	45/21	46.7%	12.1%	11.2%	22.2%	46.7%	50.9%	-
19	AUT	51/19	37.3%	13.9%	11.1%	15.7%	37.3%	48.6%	-
20	BRN	83/35	43.4%	24.3%	22.4%	18.1%	43.4%	48.5%	-
21	KSA	43/17	39.5%	10.9%	9.8%	9.3%	39.5%	44.6%	-
22	COR	20/11	55.0%	5.4%	6.2%	20.0%	55.0%	47.3%	+
23	ANG	32/16	50.0%	8.1%	8.8%	3.1%	50.0%	46.0%	+
24	JPN	70/32	45.7%	19.0%	18.3%	10.0%	45.7%	47.8%	-

表 4 7対6攻撃の分析—5%を超えて使用したチーム (WCh2019 GER/DEN)

順位	チーム	7対6					エンブティゴール6対6				比較			
		7対6を使用した試合	攻撃回数/得点	攻撃成功率	攻撃の割合	得点の割合	ターンオーバーの割合	失点の割合	6対6の攻撃成功率	他の攻撃成功率	エンブティゴールの攻撃	他の攻撃	結果	
15	MKD	7	111/50	45.1%	29.1%	26.2%	18.0%	14.4%	44.4%	62.5%	45.9%	52.5%	-	
16	CHI	3	53/25	47.2%	13.4%	6.3%	13.2%	9.4%	46.0%	58.3%	48.0%	46.9%	+	
20	BRN	6	39/18	46.2%	11.4%	11.2%	20.5%	18.0%	40.0%	44.4%	43.4%	48.5%	-	
6	CRO	8	48/23	47.9%	10.6%	9.2%	14.6%	16.7%	58.1%	66.7%	52.9%	56.0%	-	
24	JPN	5	30/15	50.0%	8.1%	8.6%	13.3%	16.7%	32.0%	60.0%	45.7%	47.8%	-	
1	DEN	3	35/26	74.3%	7.0%	8.2%	2.9%	5.7%	63.2%	83.3%	71.4%	61.9%	+	

7対6の攻撃：特定の試合状況においてのみ戦術的な選択肢になる

非常に近い距離で効果的にプレーできる。Rasmus Lauge や、特に Mikkel Hansen のような世界クラスのプレーヤーは効果的なプレーのために助走を必要としない。彼らは立っている姿勢から効果的にプレーできる。

- ・7対6でプレーする場合、状況判断できるプレーヤーがいることが特に重要である。バックコートでは基本的に右または左バックプレーヤー（Lauge や Hansen）が状況に応じて戦術的に最も有利なプレーを決定する。例えばウィングプレーヤーへのロングパス、ずらしの開始（より大きなスペースで明確に数的有利な状況下で）、ラインプレーヤー（ポスト）へのパス、もちろんロングシュートも狙う。

予選ラウンドの試合では、デンマークは3人（!）のラインプレーヤーで7対6の攻撃の戦術もテストした。しかし、まだいくつかの問題があった。準決勝戦、決勝戦の両方が僅差の試合であったとしたら、デンマークが7対6攻撃を行ったかどうかはわからない。それは2016年フランスとの決勝戦において、試合開始17分にダイレクトゴールを2回決められた後、デンマークが7対6攻撃をやめたことが思い出されるからである。2019年世界選手権では、チームがエンptyゴール攻撃を長く続けすぎたいくつかの悪い例もあった。

ブラジル対クロアチア (29-26)

ブラジルとのメインラウンドで、クロアチアは以下の結果を記録した。

- ・7対6攻撃：8回のうち1回の成功（13%）、4回のダイレクトゴールを決められた。
 - ・エンptyゴール6対6攻撃：4回のうち成功はなく、3回のダイレクトゴールを決められた。
- 攻撃成功率が8%で7回のダイレクトゴールを決められた場合、このような重要な試合に勝つことは不可能である。

マケドニア対スペイン (21-23)

スペインとの予選ラウンドの後半開始時点ではマケドニアは1点ビハインドであった。後半のはじめに、マケドニアは6対5の攻撃を2回失敗したため、スペインの数的有利な1次速攻につながった。これに続いて、7対6攻撃を3回行ったが、一度も成功しなかった。2つはエンptyゴールにダイレクトゴールを決められた。わずか2分48秒で12-18になり、早い段階で勝負が決まった。

7対6攻撃によってハンドボールの構造は変化したか？

ゴールキーパーの代わりにコートプレーヤーを追加する単純化されたオプションの導入後、一部のコーチと専門家は、7対6攻撃をすることが静的で、魅力的でないセット攻撃につながると想定した。

2019年の世界選手権では7対6攻撃の重要性が低かったと捉えられるため、この想定は根拠に基づいて否定できる。

近年、攻撃プレーが一般的に変化していることは、しばしば見過ごされている。プレーヤーの運動能力が発達してきているのと同様に、個々のプレー能力はポジションに専門化し、シュート、パス、攻撃バリエーション、フェイント、攻撃の戦術コンセプトなどを総合させたレパートリーを持ちながら変化している。

新しい世界チャンピオンのデンマークは、この良い例である。一般的にデンマークは非常に少ない労力で攻撃を行った。デンマークのバックコートプレーヤーは、セット攻撃で長い助走を必要としない。彼らは、特に数的有利の場合、防御に近い距離で効果的に攻撃を行うことができる。今日、決定的な要因は戦術的で体系的なペースとリズムの変化である！戦術的な観点からペースとリズムを変えることは単に速くプレーすることよりも重要である！

世界選手権の決勝戦において、デンマークはMikkel Hansenを右バックに配置し、たった1種類のボールなしのクロスによって非常に良い結果を残した。その理由は以下のとおりである。

- ・技術的、戦術的に卓越した精度とタイミング
- ・ほとんど止まった状態から、短い準備時間からの効果的なペース変化
- ・3つのバックコートポジションにおけるキープレーヤーの優れたプレー能力（プレーの速さ、状況判断能力）

特殊な試合状況における7対6攻撃

いくつかのチームは、試合の大部分を7対6で行うよりむしろ、この戦術的バリエーションを特定の状況でのみ使用した。ドイツは、メインラウンドにおけるクロアチアとの重要な一戦において、試合終了3分半前、19対20で負けていた。この危機的な状況において、ドイツは残りの攻撃全てを7対6で行い、同点に持ち込むことに成功した。リスクがより高いことを自覚しながらも決定し、最終的にそれが成功につながったのである。

明確な傾向：防御の反応！

多くのコーチは、7人攻撃に対して消極的な6-ODFしか使用できないと考えている。2016年のリオ・オリンピック後、攻撃における戦術的發展の後に、防御がそれに対応すると私たちは指摘した。過去の良い例としては、1990年代終わりにクイックスローオフを導入したことがある。導入初期は、非常に高速で攻撃重視の試合が展開されたが、その後は、戦略的、組織的なリトリート（速攻の戻り）に関する考え方が体系的に見直され、攻撃から迅速に防御へ移行するようになった。

2019年世界選手権では、これと同様の戦術的な対応がはっきりと観察できた。フランス（5-1DF）やドイツ（3-2-1DF）などのチームは、積極的な防御隊形を維持して、早い段階でバックコートプレーヤーのパススピードやタイミングを乱す場面がしばしば見られた。

ブラジルがメインラウンドのクロアチア戦で驚くほど成功した主な理由の1つは、クロアチアの7人攻撃に対して行った積極的な6-ODFである。クロアチアは8回の攻撃で1ゴールのみで、ブラジルはエンptyゴールにダイレクトゴールを4点決め、反撃した。

7対6の攻撃：特定の試合状況においてのみ戦術的な選択肢になる

ブラジルの6-0DFは、クロアチアのパスを可能な限り妨害するために、卓越したフットワークとボールのない側からの積極的な防御プレーを見せた。目的は、相手を不必要な1対1、または十分に対応できる最終プレーに追い込むことである。

まとめ

ゴールキーパーを7人目のコートプレーヤーに置き換えるという簡略化されたプレーは、現在、戦術的なオプションとして、特に試合の重要な局面でコーチたちに使われている。観察すると、7対6という戦術を長時間使用することは、望ましい結果をもたらさないことが多い。審判は、しばしばパッシブプレーの予告さえ見せた。実際、7対6の攻撃は簡単ではなく、大抵の場合は困難である。その理由としては以下の4点がある。

- ・ 攻撃側のプレーヤー一人あたりの活動範囲は小さくなっていくため、前後左右へのパスを非常に正確に行う必要がある。
- ・ ミスは即座にエンティゴールに向かって反撃される可能性が常にあるため、心理面も重要な役割を果たす。リスクの高い試合状況において、攻撃側は、成功の見込みが非常に高いチャンスを作る必要があり、軽率に焦ってプレーしてはならない。
- ・ シュートが成功した後でも、攻撃側は極めて迅速に防御へ移行し、速やかにゴールキーパーを配置する必要がある。
- ・ 7対6の状況において、積極的な防御プレーは、攻撃側のタイミングとパススピードを乱すだけではない。それによって、攻撃側は「望ましくない」最終プレーやミスさえ引き起こす。

3.2 エンティゴール6対6攻撃

ここでは2019年世界選手権の分析から明確な見解を提供している。チームに2分間退場が与えられた直後にボールを保持する場合、セット局面において同数でのプレーを可能にするため、ゴールキーパーはしばしばコートプレーヤーと置き換えられる。

ただし、この戦術的手段は常に成功するとは限らない。エンティゴールという高いリスクは、上記のような高いレベルでの規律と精度を求める。ゴールキーパーが自陣のゴールにいるような通常の攻撃プレーと同様の優れた攻撃成功率を達成できるチームは、世界選手権でもわずかだった。

多くの場合、5対6での攻撃という「古い」戦術を使用していた。「見せかけの攻撃」を使い、非常に長い組み立て局面（例：ポジション攻撃において、シュートができる状況をすぐに作ることを目的としない多数のクロス）によって時間を稼ぐことができる。この状況に対し、IHFの審判は準備が整っており、非常に早くパッシブプレーを予告した。

7対6でのプレーと同様に、エンティゴール6対6では、防御側のプレーに明確な発展が見られる。多くのチームは、このような状況で攻撃側に対して、よりプレッシャーをかけようとする。一部のチームは、ディフェンス隊形を変更した（例：5-1DF、3-2-1DF）。

今日、2分間退場中に平均3～4回の攻撃が行われる。2分間退場を受けたチームは、数的不利な状況で防御し続けなければならないが、ボールを保持している場合は、ゴールキーパーを代えて相手と同数で攻撃することができる。

以前と比較すると、これは、2分間退場が少なくともその価値の一部を失うことを意味している。

この文脈で興味深いのは、基本的には時間をかけてプレーするだけのつまらない5対6での攻撃を、一部のコーチや専門家が批判したことである。過去には6対6でプレーすることがハンドボールの核であり、6対5攻撃を頻繁に行うことはネガティブだと考える人がいた。

退場の価値について考えなければならないことは事実である。退場はハンドボールの質と魅力にとって極めて重要である。IHFのゲームおよびルール開発に関するワーキンググループは、この問題について既に議論を始めている。

なんだか、家族が楽しい、1日です。

次はいつ行く？
ゆめタウン

知らなかった「かわいい」や「おいしい」に出会える1日。家族ってまるで探検隊だ。

株式会社イズミ ゆめタウン 検索 <https://www.izumi.co.jp>
本社 〒732-8555 広島市東区二葉の里三丁目3番1号 TEL 082-264-3211 (代)

編集後記…600号に想う

1960年5月に機関誌初号が発行されて以来、60年の時間を経て本号にて600号に到達しました。この間執筆戴いた方々、編集に携わった委員会のメンバー、その他の関係各位に、この場をお借りして感謝申し上げます。

日本協会自体が発行する「機関誌」の性格から、掲載の内容については日本協会活動の足跡と展望を中心に捉えながら、編集時には常に新たな課題と問題意識を抱えながらの発行継続でした。時代の潮流と共に機関誌の発行形態も「紙」から電子媒体である「Web」へと変遷し、協会内に留まること無く一般のファン等にも容易に機関誌に触れる事が可能となり、ハンドボール文化の醸成にも貢献が出来ることも期待しての変更でした。

現在のハンドボール競技は、特に比較されやすいサッカー、バレー、バスケット、野球等の団体球技と、底辺の普及に関連する小学生の競技人口、選手としても大きく成長したい若い選手の受け皿となるプロリーグの存在では、残念ながら引けを取る状況であり変えていかなければなりません。その切っ掛けとなる東京オリンピック・パラリンピック大会以降は、各競技団体の力量と英知が問われる厳しい環境も想定され、ハンドボール界は従来にも増しての成長と飛躍を求められており、機関誌活動もその一助になれば幸いです。

今後も機関誌の掲載内容についても忌憚の無いご意見をお願いすると共に、発行に掛る活動へのご支援とご協力をお願い申し上げます。

近久紀人（機関誌専門委員長）

機関誌が600号ということです。単なる節目と思えば特に思いもないことでしょう。しかし振り返ってみれば、400号特集の時にも関わっていた記憶がありますし、500号記念座談会の際は出席できなかったことを思い出します。私が最初に日本協会に関わったのは機関誌委員会であり、それ以前の読者としての関わりを考えれば50年という年月になります。幸運にも古本屋で見付けた第1号から30号までを喜び勇んで買い求めました。少々値は張りましたが、私の貴重な財産になっています。

長い間に機関誌を取り巻く環境は大きく変わって来ました。商業誌の発足、インターネット、SNS、YouTubeなどの出現などです。情報入手ばかりでなく発信も簡単に出来るようになりました。このことはネガティブな現象も引き起こしてはいますが、情報を求める側としては大変に好ましいこととなっている筈です。これらの現象を有効に機能させるためには、すべてのステークホルダーの情報リテラシーの高まりが必須と思われれます。

今後の機関誌の役割については、色々と議論されています。これからは情報環境は変化して行きますが、多くの方々より良い機関誌を目指して活動して行きたいと思えます。

村松 誠

「日本のハンドボールに憧れと誇りと強さを」これは編集委員会の先輩である杉山茂氏が500号記念座談会でおっしゃった言葉である。（機関誌501号；2009年6-7月号参照）

私は2006年4月から編集委員会に加わった。思い出に残るものとしてはいくつかある。2007年5月に熊本県山鹿市のオムロン体育館に北京オリンピックアジア予選を控え合宿中の日本代表女子チームを訪問しベルト・パウワー監督（当時）にインタビュー（481号；2007年6-7月号）を行った。誌面の都合で原稿を起こせなかったが、パウワー監督から諸外国の長期計画について聞き、その後しばらく時間を要するも2019年熊本女子世界選手権で彼の母国であるオランダが優勝したことで符号が一致した感を持った。

また日本協会創立75周年記念誌（概要は532号；2012年12月号）の編集に際して、企画物であるミュンヘンオリンピック選手の座談会の原稿を精査するため、1967-1972の機関誌を熟読し、当時の選手関係者、並びに書き手の発信量とその力強さに感銘を覚えたものである。

さらに編集に携わった縁で全日本総合選手権（全日本選手権）の戦評を書くことになった。

大会に集う高校・大学・社会人・日本リーグと各カテゴリーのトップチームを間近に見ながら、そこに関係する家族や応援団のハンドボールへの思い、さらにプロの記者たちの冷静な目などにも接し、勉強になったというのが偽らざる感想である。

このように印象に残っているものはナショナルをはじめとするトップチームの動向であった。

「日本のハンドボールに憧れと誇りと強さを」今後もこの一助となるために機関誌編集委員会で活動していきたい。

菊地知男

編集後記…600号に想う

北村善夫前編集長の突然の訃報に接し、駆けつけたお通夜の会場で機関誌の委員になってから、14年が過ぎた。なかなか仕事の都合で編集会議には参加できず、申し訳ない限りであるが、委員会の皆さんのおかげでなんとか続けられている。

委員として思い出に残る出来事は、2008年の北京オリンピックアジア予選再試合である。当時、この話題は大きなニュースとしてメディアが取り上げ注目を浴びた。1万人を超える超満員の代々木第一体育館で行われた試合は男女ともに残念ながら敗れてしまったが、あの凄まじい熱狂は忘れられない。

新型コロナウイルス関連のニュースが連日報じられ、オリパラの関連行事にも影響が出てきているが、早期の鎮静化を期待したい。今年の夏には同じ場所でオリンピックのハンドボール競技が行われる。当時は紙面の都合上、白黒写真や文字数制限などがあったが、ネット配信となり、内容も充実した新しい機関誌を通じて、今までにない熱狂を記録として残すとともに、長く記憶に残るように愛好者のみなさまにお伝えしたい。

川村浩一

私が機関誌編集委員会に関わらせていただいたのは、たかだか直近の10年（しかも転勤による中断を含む、極めて細い10年）だけです。聞けば機関誌の創刊は1960年とのこと。60年・600号もの長きに渡り機関誌の歴史をつないで来られた、現在に至るまでの歴代編集委員の皆様へは敬意を表さずにはられません。

しかしすごいのは歴史の長さではありません。昨年、ミュンヘンオリンピックの記事を書かせていただいた際に、当時の機関誌を読み返しました。オリンピック予選から本大会までの激闘の記事を読むにつけ、当時の日本ハンドボール界にただよう熱気、気概、選手や関係者の皆様の献身がまざまざと感じられ、全身が総毛立ち目頭が熱くなるほどの興奮と感動を覚えました。機関誌の実力を感じた次第です。

今は、機関誌をインターネットで読める時代です。部活動としてのハンドボールを引退してしまうと、すっかりハンドボールから遠ざかってしまう人も多いかと思います。

そのような方々と今のハンドボールをつなぐような役割を機関誌が果たせれば……という願望をもって、私の編集後記とさせていただきます。

小林弘樹

2013年の4月から機関誌専門委員を務めています。この時に535号が発刊されているので600号という積み重ねのなかでは、短く小さな関りしか出来ておりません。また、私は高校生の時にハンドボールに出会い、今もプレーをしたり、指導をしたりしていますが15年程度しかハンドボールと関わっていません。そんなハンドボールとも機関誌ともまだまだ関りの短い私はこの機関誌を通して、ハンドボールを教わっています。編集に携わっていると毎号毎号、様々なカテゴリーで、様々な大会や研修会などが行われ、多くの方々が情熱をもってハンドボールに取り組んでいることに気付かされます。小学生から日本代表、マスターズまで、たくさんの‘ハンドボール仲間’の熱い思いや記録を残し、その間を繋げる役目として、これからも少しでも貢献していければと思っております。

山田盛朗

多彩なフィールドで、フロンティアを目指しています。

大同特殊鋼の素材は、暮らしや産業を支える多彩な製品や部品に使われています。
私たちはこれからも、素材の力で新たな価値創造に貢献していきます。

DAIDO STEEL GROUP
Beyond the Special



外からは見えませんが、骨のある会社です。

 大同特殊鋼